



**2023年度
日本語・日本文化研修留学生**

研究レポート集 XXI

**2024年9月
三重大学 国際交流センター**

❀目 次❀

2023 年度 日本語・日本文化研修留学生 名簿	1
◆ クロアチアの日本語授業における母語使用の可能性 Petrlic Marija ペトルリッチ マリヤ (クロアチア・ザグレグ大学)	2
◆ 日本語の慣用句に表現される文化的特徴の研究 Lam Hoai Nhat ラム ホアイ ニヤット (ベトナム・ホーチミン市師範大学)	13
◆ 日本およびタイにおける性と生殖に関する健康と権利の比較 —妊娠中絶を中心に— Charoensak Pimpitcha チャルンサク ピムピッチャー (タイ・タマサート大学)	23
◆ 三重弁における年齢差の実態調査：否定形に焦点を当てて Saefulloh Ilham Akbar サエフロー イルハム アクバル (インドネシア・パジャジャラン大学)	35
◆ 中国と日本の大学生の将来に向けてのキャリア設計の比較 Jin Jiaying キン カエイ (中国・延辺大学)	46
2023 年度 研究成果最終発表会 修了式の風景	58
2023 年度 日本語・日本文化研修留学生プログラムの概要	60
編集後記	63

2023年度 日本語・日本文化研修留学生 名簿

(2023年10月～2024年8月)

氏名	国籍 (母国の所属大学)	性別	専門領域	身分	指導教員
ペトルリッチ マリヤ PETRLIC MARIJA	クロアチア (ザグレブ大学)	女	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大使館推薦・国費外国人留学生)	正路 真一 (国際交流センター・助教)
ラム ホアイ ニヤット LAM HOAI NHAT	ベトナム (ホーチミン市師範大学)	女	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大学推薦・国費外国人留学生)	松岡 知津子 (国際交流センター・准教授)
チャルンサク ピムピッチャー CHAROENSAK PIMPITCHA	タイ (タマサート大学)	女	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大学推薦・国費外国人留学生)	松岡 知津子 (国際交流センター・准教授)
サエフロー イルハム アクバル SAEFULLOH ILHAM AKBAR	インドネシア (パジャジャラン大学)	男	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大学推薦・国費外国人留学生)	正路 真一 (国際交流センター・助教)
キン カエイ JIN JIAYING	中国 (延辺大学)	女	日本語	日本語・日本文化研修留学生 (大学推薦・国費外国人留学生)	福岡 昌子／正路 真一 (国際交流センター・教授／助教)

(学籍番号順)



左からサエフロー イルハム アクバルさん、ペトルリッチ マリヤさん、ラム ホアイ ニヤットさん、チャルンサク ピムピッチャーさん、キン カエイさん

クロアチアの日本語授業における母語使用の可能性

マリヤ・ペトルリッチ

1. 背景

ここ数十年の間に、クロアチアで日本語と日本の文化はさらに人気になった。例えば、20年前にはザグレブ大学に日本語学科ができて、数年前にはプーラ大学に日本語・日本文化学科もできた。プーラ大学で日本語研究が一番人気だ。毎年最初の夏の大学入試で、すべての学生枠が埋まる。GLAS ISTRE の記事 (Palibrk 2022) によると学生数は170人で、クロアチア全土から集まっており、将来的にはアジア研究が形成され、より高い学問レベルへと拡大していくだろうと考えられている。

クロアチアでは日本語と日本文化が比較的新しい研究なので、クロアチア語での研究論文や書籍は少ない。また、クロアチア語で書かれた日本語教科書も少ない。したがって、クロアチア人の学生、先生、研究者は英語や日本語など、他の外国語の資料を使う。この論文は、クロアチアの日本語学習の中で使われる言語についての研究である。

2. 外国語教育で使われる言語について

一般的に、外国語の教育の中で使われる言語については、様々な方法がある。その一つは直接法で、勉強する言語だけを使うという方法である。直接法 (ダイレクト・メソッド、モノリンガル・アプローチ) は、母国語を使わずに直接外国語を教える方法として、世界中の教室で使われている。最初に文法構造を説明するのではなく、学生自身が目標言語の環境に没頭することに重点を置いている。この方法は、習得しようとする言語に集中させ、一定期間内に流暢に話せるようにするための有効なメソッドとなる。この方法は通常、教師と学生が会話し、翻訳を使わず、視覚と聴覚の関係を重視しながら、思考されている内容を理解するために行われる (Zaharuddin 2020)。特に、このテクニックの一部は、色々な異なる国から来た学生がいる教室で、教師がターゲット言語だけを使って勉強している言語を教えるという場面で、今日でも使われている。学生を授業に参加させる良い方法であり、言語の流暢さと理解を助け、学生が目標とする言語で表現することを心地よくさせることができる (Muthuja 2009)。

直接法は今でも広く使われているが、しかし、直接法には明らかな欠点がある。どの言語でも初級レベルでは、学生たちは教師が話したすべての単語や文章を理解できるほどの語彙力を持っていない。どの言語を学ぶにしても、母国語の助けがなければ、授業を理解する上で大きな問題に直面する可能性がある。学生が文脈からすべてを学んだり理解したりできるわけではないと言える。視覚的な手がかりは役に立つが、時には混乱を招き、文脈が不明瞭になることもある。このメソッドでは、多読や多作を伴わないため、学生は対象となる言語

で読んだり書いたりするのに苦労することがある。例えば、日本語の複雑さ、特に語彙や漢字の複雑さを考えると、日本語学習者にもこの問題が当てはまると言える。また、日本語には多くの漢字の組み合わせがあり、多くの同音異義語があるため、これは大きな問題となり得る。Zaharuddin (2020) の研究で重要なのは、直接法で教えられていることに対する学生の理解が一貫して曖昧であり、学生が多くの問題に直面しているということであった。また、Dujmović (2007) は論文の中で、Miles (2004) の主張を引用し、直接法は教師と学生の間には緊張を生み、学生の言語学習に大きな影響を与える可能性があるとして指摘している。

直接法の問題点に対する解決策として、教室で母国語を使うことで、授業全体がより簡単になる。例えば、質問が難しい場合、教師は母語で助けることができる。文法が複雑であれば、母国語の文法と比較することができる。もし学生が翻訳の間違いを理解していなければ、教師は母国語で間違いを指摘することができる (Dujmović 2007) 。Dujmović (2007) は、クロアチア人の英語学習に関する研究の中で、英語の学習には、母国語

(クロアチア語) が重要な役割を果たすと述べている。教室での母国語の活用法としては、学生が授業中の指示をどの程度理解しているかをチェックしたり、不明な点があれば翻訳することで授業時間を節約したりすることもできる。

最近では、教室で母国語を使うことを禁じたり禁止したりすることは、学生に「間違いを犯してはいけない」という意識を与え、学生を緊張させ、かえって学生にとってマイナスに働くという議論もある (Holthouse 2006) 。例えば、ある瞬間に単語を思い出せなかったり、語彙力がなくて単語を知らなかったり、文法に問題があったりする学生は、目標言語で自分を表現することができないので、フラストレーションがたまる。その結果、授業中一言も目標言語を話さなかったり、宿題をするのが遅れたり、課題を理解できなかったりする。Holthouse (2006) によると、教室では、バランスよくスマートに学習者の母国語を使うべきだ。母国語の使用は、学生のレベルや目標言語の習熟度、授業で扱われるトピックに応じて調整されるべきであるという主張がなされている。

一方、交換留学のような場で、様々な学生の母国語が混在する場面では、学生の母国語を使って授業をすることはできない。その場合は、母語以外の共通言語、例えば英語を使うことで、文化の違いを超えることができ、または目標言語を使うことで、目標言語との結びつきを強めることができる。

3. クロアチアでの日本語教育の状況

クロアチアでの日本語学習には様々な問題がある。初めに、日本語はクロアチア人には全くなじみのない言語であることだ。クロアチア語はスラブ語で、日本語はアジア語なので、文法、単語、発音に加え、文字や考え方も違う。言語が大きく違うので、習得に長い時間かかり、覚えなければいけない漢字が多い。こうした問題に対しては、良い教科書と教材があれば、改善は可能かもしれない。しかし、クロアチア人の日本語学習にはもう一つ問題があると考えられる。それは、前述の通り、クロアチアでは日本語は比較的新しい学問分野なの

で、クロアチア語で書かれた日本語の教科書や教材が少ないということだ。そのため、日本語の教科書や教材がいつも英語で書かれていて、クロアチア人は英語で日本語を勉強している。例えば、ザグレブ大学の日本研究プログラムへの入学条件には、「コースで使用される専門文献や参考文献は主に英語であるため、十分な英語の知識が必要

(<https://web2020.ffzg.unizg.hr/blog/2023/09/07/prijave-za-upis-na-slobodne-studije-sinologije-i-japanologije-4/>)」と書かれている。^①そして、クロアチアで使われている日本語の教科書は、『げんき』、『みんなの日本語』、『とびら』などの英語で書かれた教科書である。クロアチアの若い人は大体英語が話せるが、誰もが日本語を勉強するために使えるほど上手なわけではない。

多くのクロアチアの日本語学習者にとって、英語が第二言語、日本語が第三言語であるが、Perić & Mijić (2017) の第三言語学習についての研究によると、第三言語の習得には、第二言語のレベルが大きく影響するとされている。クロアチア人の日本語学習者にとって、第二言語は英語であり、第三言語が日本語であるので、第二言語（英語）のレベルが第三言語（日本語）の習得レベルに影響すると言える。さらに、クロアチアの日本語教師の英語力も、学生の学習に影響する。例えば日本出身の先生がクロアチア語が分からず、いつも英語か日本語を使うが、その教師の英語力が低いと、クロアチア人の学生にとっては分かりにくい。

さらに、英語、日本語、クロアチア語はそれぞれ文法が違うが、英語よりもクロアチア語の方が日本語に近い文法もあり、その場合は英語を使わずにクロアチア語で日本語を学習した方が理解しやすいと考えられる。例えば、文法格 (case) について考えてみる。^②日本語には多くの格があり、主格 (nominative)、対格 (accusative)、属格 (genitive)、位格 (locative)、具格 (instrumental)、与格 (dative)、共格 (comitative) などがある。

そして、これらの格は、格助詞 (case marker) で示される (Ali 2015)。例えば、「電車で行きます」という文の場合、格助詞「で」が名詞「電車」の具格を示す。一方、クロアチア語には、7つの格があり、それは主格 (nominative)、対格 (accusative)、属格 (genitive)、位格 (locative)、具格 (instrumental)、与格 (dative)、呼格 (vocative) である (Hadži, Plešković, & Čužić 2011)。そして、クロアチア語で格を示す方法は、日本の格助詞と似ていて、接尾辞を使う。例えば、「Idem vlakom (電車で行きます)」という文の場合、接尾辞「om」が「vlak (電車)」の具格を示す。日本語とクロアチア語の格の示し方（「で」と「om」）は似ていることが分かる。しかし、英語には三つの格（主格、対格、属格）しかない。この主格、対格は一般的に文中の位置で示され、属格は 's で示される。そして、日本語やクロアチア語のその他の格は、英語では前置詞を使う。例えば、「I'm going by train」の by が train の前置詞である。こうして見ると、日本語の文法格を学習する場合、英語を使わずにクロアチア語で日本語を学んだ方が理解しやすいと想像できる。クロアチア人の学生は、クロアチア語の接尾辞の使い方と日本語の助詞の使い方に関連性を見つけられるかもしれない。

4. 研究目的

この研究は、次の質問に答えることを目的とする。まず、クロアチアの学生は日本語をどのように勉強しているのか、そして英語はどのように影響しているのか、そして、クロアチア人の学生はクロアチア語での授業や教材を求めているのかということである。この研究は、クロアチア人の日本語学生のために行う。この研究が、クロアチアでの学習経験を向上させ、アジア言語習得の一般的な見識を得るために、現在および将来の日本学を学ぶ学生や教師の助けとなることを願っている。

5. 調査

5. 1. 協力者

この調査への協力者は、クロアチアのザグレブ大学の学生 41 人である。調査は、ザグレブの人文科学部の学生に送られた電子メールによる質問フォームを使って行われた。対象は日本学を専攻する学生で、1 年生から中途退学者まで幅広い。なぜか日本学のメーリングリストに入ってしまった人が 3 人いるが、実は他の研究グループの学生である。すべての回答から彼らが誰であるかを抽出するのは難しいので、彼らも日本語学習であると考え、すべての回答を分析した。

41 人の参加者全員が母国語をクロアチア語と答えた。また、ほとんどの参加者の日本語学習歴は、2 年～3 年で、この調査の全参加者の 29.3% を占めている。1 年未満は 9.8%、1 年～2 年は 14.6%、3 年～4 年は 12.2%、4 年以上は 14.6% だった。その他、不明が 19.2% だった（「その他」を選んだ学生の回答は、例えば「もう卒業した」などである）。年齢層はさまざまで、20 歳以下の学生はいない。というのも、日本学に入学できるのは 3 年課程を修了した後か、3 年課程の初め、あるいは修士課程や博士課程の途中からだからである。最も若い参加者は 21 歳から 25 歳で、参加者の 17.1% を占め、40 歳以上の参加者もいる。最も年齢層が高いのは 25～30 歳で 34.1%、30～40 歳が 31.7% であった。41 人の参加者のうち、56.1% が女性、43.9% が男性と答えた。また、日本語能力試験の合格者が数名いた。合格者のレベルは、N3 レベル 50%（5 人）、N2 レベル 40%（4 人）、N1 レベル 10%（1 人）である。

5. 2. 調査方法

調査方法としては、クロアチアのザグレブ大学で日本語を学ぶクロアチア人学生を対象にアンケートを実施した。調査は 2024 年 5 月末までに行われ、参加者から回答を得た。実際に実施したアンケートの質問を、下に掲載する。（ここでは日本語で掲載するが、実際のアンケートではクロアチア語に日本語を添えた。）

質問① 英語のレベルはどのくらいですか。

A1 A2 B1 B2 C1 C2

質問② あなたが使っている教科書は何語で書かれていますか（日本語以外で）。

英語 クロアチア語 その他

質問③ 授業では、標準的な教科書や学習マニュアルとは別に、追加の教材を受け取りますか？（PowerPoint、プリント、翻訳、教授や講師が独自に作成した資料など）その場合、その教材は、何語で書かれていますか。

英語 クロアチア語 その他

質問④ 英語を通して日本語を学んだり、文法の説明を理解するのは簡単ですか？

はい、簡単です。

理解するのに時間がかかることもあります。

不可能ではありませんが、クロアチア語への翻訳などで工夫しています。

いいえ、難しいです。

質問⑤ 日本語クラスでもクロアチア語を使いたいですか？（文法の説明や資料の理解を助けるために）

はい いいえ 分からない その他

6. 結果

質問①「英語のレベルはどのくらいですか。」について、58.2%が「C2 レベル」、34.1%が「C1 レベル」と回答した。B1、B2、A1を選んだ人はわずか3人で、ほとんどの学生が高い英語の知識を持ち、日常的に使っていることがわかる。

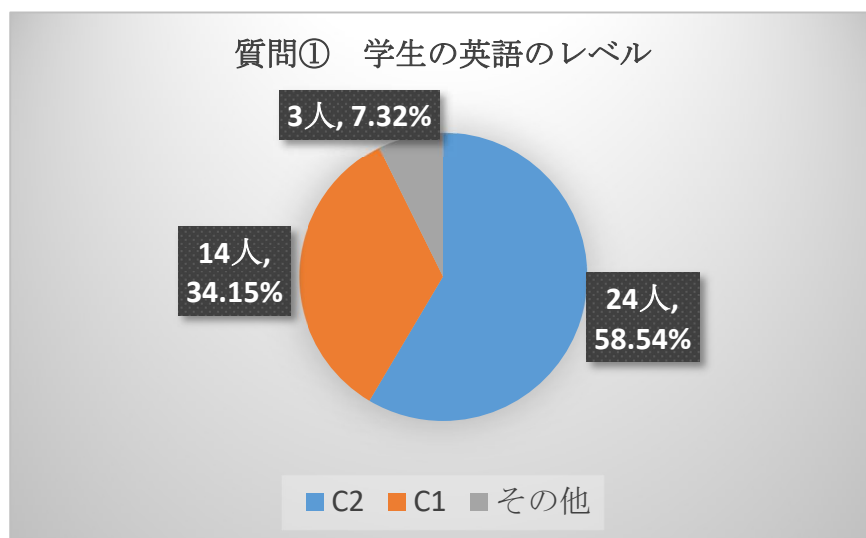


図1 質問①の回答

質問②「あなたが使っている教科書は何語で書かれていますか（日本語以外で）」について、約93%の回答が英語だった。質問③「授業では、標準的な教科書や学習マニュアルとは別に、追加の教材を受け取りますか？（PowerPoint、プリント、翻訳、教授や講師が独自に作成した資料など）その場合、その教材は、何語で書かれていますか。」についても、英語という回答が78%で最も多い。その他の回答には、クロアチア語で書かれたもの、日本語のみ、英語のみ、クロアチア語、日本語、英語が追加教材として含まれている。この他の選択肢はすべて、英語のほかに1人か2人しか選んでいない。ザグレブ大学の学生の日本語学習が、ほとんど全て英語で行われていることが分かる。

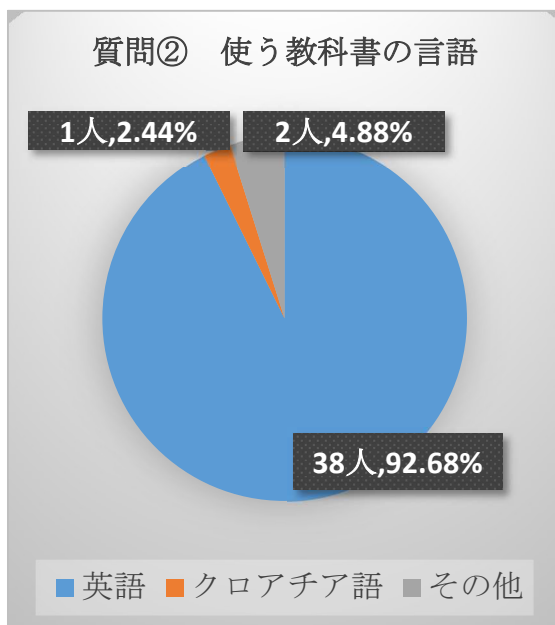


図2 質問②の回答

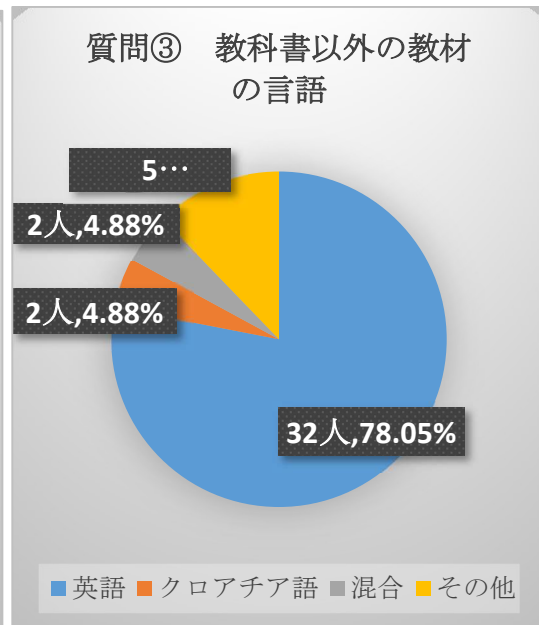


図3 質問③の回答

では英語を使って日本語を学ぶのは簡単なのだろうか。これを聞いた質問④では、68.3%の学生が、英語で日本語を学習するのは簡単だと答え、22%の学生が時間がかかると答えた。「クロアチア語に翻訳することがある」と回答したのはわずか4.9%（2名のみ）であった。また、「英語を理解することに問題はないが、問題は下手な英語が使われている場合だ」と答えた人もいた。

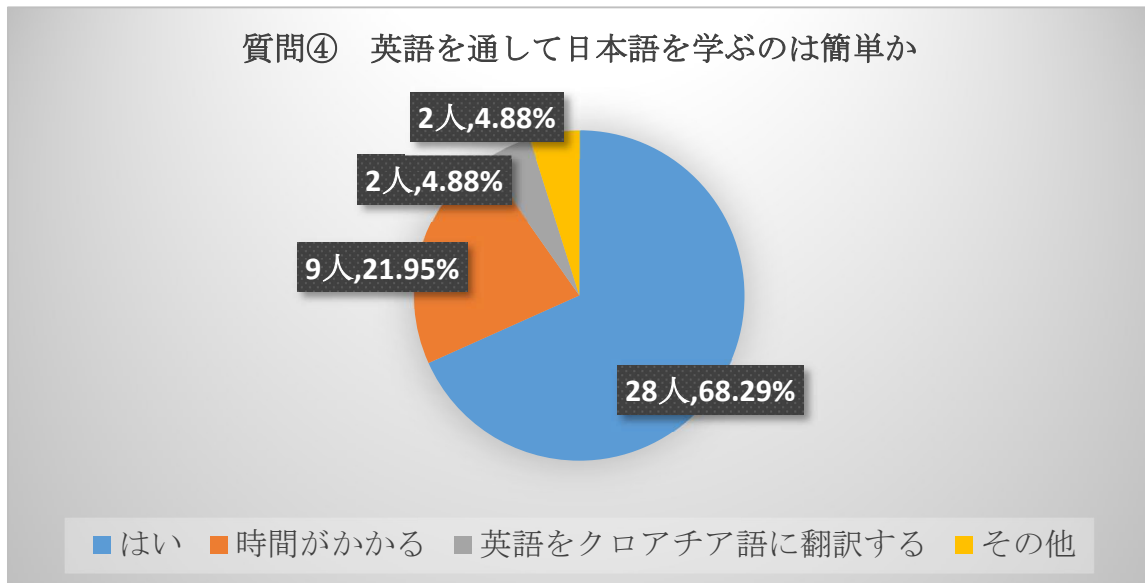


図4 質問④の回答

最後に質問⑤「日本語クラスでもクロアチア語を使いたいですか」については、回答が分かれた。「はい（クロアチア語を使いたい）」が17人で41.5%、「いいえ（クロアチア語を使いたくない）」が11人で26.8%、「わからない」が11人で26.8%、「その他」が2人で4.9%だった。（「その他」に書かれた意見は、「自分の専門分野は英語と日本語だから、問題ない」、「どちらでもいい」であった。）

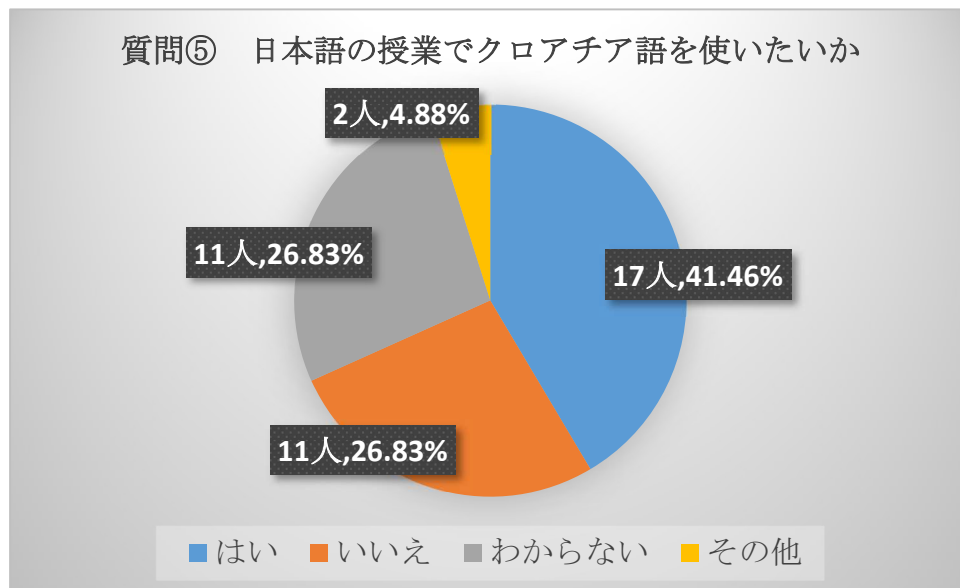


図5 質問⑤の回答

7. 考察

調査結果に提示されたデータから、2つのことが明らかになった。第一に、質問①④の結果が示すように、クロアチアの学生は英語レベルが非常に高く、英語で書かれた教科書だけでなく、日本語を学習する際にさまざまな英語で書かれた教材を使うことができるということだ。英語の訳と日本語の意味を比較したり、英語で書かれた日本語の情報を読んだりすることも簡単にできる。日本語からクロアチア語へ、あるいは英語からクロアチア語へ直接翻訳して時間を無駄にする必要もない。ただし、22% (9人) の学生が、英語を使って日本語を学ぶのは時間がかかると回答していることにも留意するべきであろう。

第二に、質問⑤の結果が示す通り、英語を使って日本語を勉強することができると言っても、クロアチア語を使うことが彼らにとってプラスになるという点では、ある程度同意が得られている。ここで「日本語の授業でクロアチア語を使いたい」と回答した学生は、質問①～④で、クロアチア語や日本語混じりの教材を使っていたり、英語で日本語を学ぶのは時間がかかると回答したりしている少数派の学生であると推察される。

また、学生の一人が回答したように、英語そのものに問題があるのではなく、学生が理解できない下手な教師の英語に問題がある場合もある。これは、日本語教師が授業や教科書などで使う英語にあまり精通しておらず、少し不自然に聞こえる場合に起こる。これは、学生たちの英語力が教師よりも高いことを示していて、質問①～④の結果と一致する。一方、そのような場合、クロアチア語の教科書や教材を使うことで、下手な英語の問題を解決し、学生の理解を助けることができるという点では、質問⑤の結果とも一致する。

それでも、かなりの数の学生がクロアチア語は必要ない、あるいは授業で使うべきものではないと考えている。ある学生は、授業以外で日本語を学ぶ方法、例えばマンガやアニメ、その他のメディアを利用する場合、そのほとんどが英語訳であり、クロアチア語訳ではないことを指摘した。そのため、勉強中はクロアチア語よりも日本語や英語を使う方が楽だという。それが、多くの学生が教室でクロアチア語を使う必要がないとする理由かもしれない。また、学生が意見を述べるために設けられたコメント欄では、教室で使われる言葉にはあまり関心がなく、授業の進め方を重視する意見が多数を占めている。

ある学生が指摘したもう一つの問題は、クロアチアでは日本語を勉強する人の数が少なく、クロアチア語の日本語教科書を作る価値があるのかということだ。クロアチア話者は少なく、日本語学習者の数も少ないので、それは事実だ。しかし、セルビアやスロベニアといった近隣諸国は、日本語教育の長い伝統があり、多くのクロアチア人がこれらの国に日本語を学びに行くような、非常に優れた日本語教育を行っている。セルビアやスロベニアでは、日本語の文法や漢字について、セルビア語やスロベニア語で書かれた本や教材もある。したがって、授業で母国語を使うのに、学生の数や興味は問題にならないはずだ。興味はあるが、大学で勉強したくない、あるいは自分のペースで勉強したいという人たちの間でも、普及させることができる可能性もある。

8. 結論

この研究は色々なことを示している。前述の通り、クロアチアの大学では日本語の授業中に英語か日本語か使うが、クロアチア語は使わない。ドイツ語、フランス語、イタリア語、ベトナム語など、英語以外の言語で書かれた日本語の教科書もあるが、クロアチア語の教科書はない。この調査に協力したクロアチア人の学生は、ほとんどの学生の英語レベルが非常に高かったので、英語を使って日本語を勉強することはそれほど難しいことではないということが結果に示された。実際に、クロアチアの日本語学習者の中には、日本語のレベルがかなり高く、日本語能力試験 N1 レベルの学生もいる。ということは、英語の説明にもついていけて、英語で書かれた教科書を正しく理解し、他の勉強法も加えて、受動的であれ能動的であれ、ある程度は日本語を習得し、高いレベルで使えるようになっている学生もいるということだ。

しかし、第三言語（日本語）を学ぶために第二言語（英語）を使用することは、時として難しい瞬間がある。そのような場合、クロアチア語で説明したほうがわかりやすいかもしれない。実際に、この研究の結果、英語の説明を理解するのは時間がかかるという学生も、クロアチア語を使って日本語を学びたいという学生も、ある程度いることが確認された。

この研究では、クロアチア語を使って日本語教育をするべきか、それともクロアチア語を使う必要はないかについて、はっきりとした答えは出なかった。しかし、クロアチアの日本語教育者にとって、この研究は意味があると考えられる。クロアチアでは日本学はまだ新しいコースなので、新しい学生を招き、日本語を学ぶことにもっと興味を持ってもらうために、この分野ではまだまだ改善の余地がある。というのも、クロアチアでは教室での日本語教育に関する研究が不足しており、言語学的な比較や日本語教授法が研究者の間でまだ普及していないからである。例えば、本論文で引用した Dujomović (2007) はクロアチアの英語教師だが、日本学の分野では働いていないし、Perić や Mijić (2017) も同様だ。本論文は、クロアチアの日本語教育について調査したという点で新規性があるものであり、将来この研究結果が正しくないと証明されることがあったとしても、その出発点となりうるものである。本稿は、今後の教育において改善すべき点や取り組むべき点があるかどうか、またそれについて生徒がどのように感じているかを確認するための基礎資料として役立つだろう。

最後に、今回の研究の難点は、データが非常に少なく、受け入れがたい回答もあったことだ。学生の中には、聞かれていないことを答えたり、関係ないかもしれない説明をしたりする者もいた。この調査を全国的に、あるいは協力者を変更して1年後に再現した場合、回答の一部は大きく異なる可能性がある。にもかかわらず、この論文はクロアチアの日本語学習や教育のために、日本語教育の弱点と長所に的を絞るための良いきっかけになるだろう。全体として、この論文はクロアチアにおける日本学の未来に改善をもたらすことができると考える。

注

注1 この入学条件は2024年までザグレブ大学で日本学だけを学んでいた日本学の非正規研究のためのものだ。現在は正規の日本学があり、入学するには国家試験に合格する必要があるため、このデータは古いものとなっている。

注2 文法格とは、名詞および名詞修飾語（限定詞、形容詞、分詞、および数詞）のカテゴリであり、文中の名詞グループの1つ以上の潜在的な文法機能に対応する。

参考文献

坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子（2020）『げんき1』 The Japan Times
スリーエーネットワーク（編著）（1998）『みんなの日本語』スリーエーネットワーク

（英語資料）

- Ashworth-Ivir, Ksenija. (2006). Trojezično usvajanje hrvatskoga jezika: prikaz slučaja. *Lahor: časopis za hrvatski kao materinski, drugi i strani jezik*, 2. 159-166.
- De Angelis, Gessica. (2009). *Third or Additional Language Acquisition*. Multilingual Matters.
- Dujmović, Mauro (2006.) The use of Croatian in EFL classroom. *Metodički obzori*, 2. 91-101.
- Holthouse, John. (2006). The role of the mother tongue in EFL classrooms (EFL 授業における母国語の役割), 『外国語教育フォーラム』 5. 27-37.
- Lourdes, Ortega. (2009). *Understanding Second Language Acquisition*. Routledge.
- Miles, Richard. (2004). Evaluating the use of L1 in the English language classroom. MA thesis, School of Humanities of the University of Birmingham.
- Murphy, Shirin. (2003). Second language transfer during third language acquisition. *Studies in Applied Linguistics & TESOL*, 3. 1-21.
- Ohta, Amy Snyder. (2001). *Second Language Acquisition Processes in the Classroom: Learning Japanese Second Language Acquisition Research*. Lawrence Erlbaum Associates Inc.
- Perić, Barbara & Novak Mijić, Sonja. (2017). Cross-Linguistic Influences in Third Language Acquisition (Spanish) and the Relationship between Language Proficiency and Types of Lexical Errors. *Croatian Journal of Education*, 19. 91-107.
- Požgaj Hadži, Vesna, Plešković, Maša, & Čužić, Tomislav. (2011). Croatian with or without grammar. *Croatian Journal of Education*, 13. 177-200.
- Težak, Stjepko & Babić, Stjepan. (1992). *Gramatika hrvatskoga jezika*, Školska knjiga.
- Zaharuddin, Azalia. (2020). Students' Response to the Direct Teaching Method: A Case Study on Malaysian Learners of the Japanese Language, 『宇都宮大学国際学部研究論集』 50, 171-178.

< 要約 >

Ovaj rad se bavi pitanjem učenja japanskog jezika govornika hrvatskog jezika pomoću engleskog jezika u nastavi i izvan nje. Glavni fokus je na tome kako i kojim tehnikama se studenti i profesori u nastavi služe kako bi što bolje savladali gradivo i premostili jezične razlikosti, te da li bi se u budućnosti nastava japanskog jezika mogla u potpunosti odvijati na dvojezičnom modelu (japanski-hrvatski) umjesto trenutnog trojezičnog (japanski-engleski-hrvatski).

Trenutno se u hrvatskim učionicama koriste udžbenici japanskog jezika pisani na japanskom i engleskom jeziku, gdje engleski služi u svrhu prijevoda gramatike, objašnjenja, prijevoda vokabulara. U toj situaciji hrvatski studenti japanskog jezika koriste svoj drugi strani jezik kako bi učili treći strani jezik.

Cilj ovog rada je traženje odgovora da li je takav pristup učenju težak za studente pri usvajanju japanskog jezika i da li bi materijali pisani na japanskom i hrvatskom, kao i uporaba hrvatskog jezika u učionici pomoglo studentima pri zaobilaženju jezičnih barijera i bržeg usvajanja japanskog jezika. Također da li bi udžbenik japanskog jezika napisan na hrvatskom bio potreban i kako bi utjecao na usvajanje japanskog jezika.

U ovom radu su korišteni podaci prikupljeni pomoću ankete među studentima vanrednog studija japanologije sa svih godina studija i onih koji su ga završili. Prema odgovorima studenata, učenje na engleskom nije preveliki izazov, ali bi također uporaba hrvatskog u većini slučajeva bila dobro prihvaćena kako bi se pojasnile neke gramatičke forme koje nisu prisutne u engleskom, ali su prisutne u nekom obliku u hrvatskom ili se lakše mogu usporediti sa hrvatskim. Također je uključeno i mišljenje studenata o hrvatskom udžbeniku za japanski jezik.

U budućnosti podučavanja japanskog jezika, dvojezični model bi trebao biti puno učinkovitiji u bazičnim dijelovima nego trojezični jer je hrvatskim studentima hrvatski jezik materinji jezik i ne moraju se oslanjati na drugi strani jezik s kojim možda nisu toliko vješti i nailaze na jezične prepreke, te bi time učenje japanskog bilo puno brže i učinkovitije u učionici i moglo bi unaprijediti kvalitetu nastave na novu razinu.

日越慣用句における「手」の意味拡張と表現される文化的特徴

ラム ニャット ホアイ

1. はじめに

Hồ Thị Hoài Nam (2017) は「日本語とベトナム語も他の言語と同様、慣用句を持つ言語である。しかも日本語もベトナム語も慣用句は日常的によく使われるものであり、慣用句の用法・解釈を深く理解することが、言語研究だけでなく、異文化理解においても、欠かせないものとなる」と述べている。また、イーゴリ (2018) は、「慣用句は、その国の文化、その国民の発想を如実に反映し、日常生活と密接な関係を持っている」と述べている。さらに、ファルザネ (2016) は「日常言語では、文字通りの意味のみならず、慣用的な意味との両方が並存する。基本義から慣用的な意味への意味拡張はほとんど、メタファーやメトニミーのメカニズムによる作用となる」と述べている。

本研究では、日本語とベトナム語の「手」に関する慣用表現を対照し、メタファーとメトニミーに基づく意味拡張を分析することで、両言語の類似点と相違点を明らかにする。同時に、統計と比較を通じて、類似点と相違点を提示し、文化の違いに基づいた理由を明らかにする。

2. 問題提起及び研究の概要

2.1. 問題提起及び本研究の背景と目的

慣用句は日常のコミュニケーションでよく使われる。そのために、日本語を勉強する外国人学習者も日本語のレベルを高め、日本人の表現心理や考え方の微妙なところを理解するために、慣用句を正しく学習し、正しく使用することが必要であると思われる。慣用句の使用度数について調査を行った程(1996)によれば、日常の言語生活に 3500 程度使用されている。程は、1942 個の慣用句を調査し、その各々を構成している主な単語の意味によって、15 テーマに大別している。程が挙げている慣用句の 15 のテーマを次の表にまとめる。

	テーマ	主な単語	慣用句数	パーセント数
1	天文・気象	天・空、太陽、月、星、雲、雨・雷、風、雪など	60	3
2	地形・風景	陸地、道、野原、山、川、海、波、穴	35	1.8
3	自然のもの	土・泥、水・湯、氷、火、煙、油	48	2.5
4	動物	動物、魚介類、鳥の体・名前、虫の名前	87	4.5

5	植物	花、根、芽、果実、草、木、田畑、植物の 名前	48	2.5
6	時	年月日、時・時間、昨日・今日、今昔	23	1.2
7	人間関係	自分、生死・命、年齢、老若、病気、人 名、世など	103	5.3
8	人間の体	頭、髪、顔、頬、眉、目、手、口、腹、 足、腰、尻、など	747	38
9	気持ち・心	気、心、感情、思慮分別、願望、態度、思 案、知恵など	158	8.1
10	暮らし	飯、米、茶、襟、袖、笠、壁・棚、車、 船、金銭など	324	17
11	神仏	神仏、鬼・魔	32	1.6
12	抽象的な物	真偽、是非、善悪、有無、勝負、当・不 当、損得など	101	5.2
13	状態	型・形、長短、高低、大小、軽重、上下、 裏表など	94	4.8
14	色	色	13	0.7
15	数	一、二、数、甲乙、単位、度・割・桁	69	3.6

表1 意味による慣用句を構成している主な単語 (程 1996)

程が挙げている 15 テーマのうち、最も多いのは「人間の体」、つまり、身体語彙を含む慣用句であり、全数の三分の一以上を占める。また、ファルザネ (2014) は日本語の身体語別慣用句数について調査している。調査した身体に関する慣用句 804 個のうち、使用率が高い身体語彙は「手」と「目」であり、その割合はほぼ同等で、それぞれ全体の約 20% を占めていた。

先行研究では、日本語とベトナム語の「目」に関する慣用句を比較した研究論文は数多く存在する。例えば、Ngô Minh Thủy (2005)、Vũ Xuân Thịnh と Trần Lê Trang (2002)、Phạm Thiên Hương (2022) である。しかし、「手」に関する日本語とベトナム語の対照研究はほとんど存在していない。一方、日本語とベトナム語以外の言語の「手」に関する対照研究としては、ファルザネ (2014, 2016) や呉 (2019) 等が挙げられる。例えば、ファルザネは日本語の「手」の機能により派生した意味の主なタイプと、それに対応するペルシア語の例を提示しながら意味分析を行った。そして、①日本語における「形状の類似性に基づいた意味拡張」はペルシア語より広い (ファルザネ 2014)、②日本語では、メトニミーによる意味拡張が多いのに対して、ペルシア語ではメタファーが多く見られた (ファルザネ 2016) という特徴を指摘した。また、呉 (2019) は「日中慣用句における『手』の意味拡張」において、日本語の慣用句の「手」には、〈労力〉〈手段・方法〉〈腕前〉〈関わり合うこと〉〈所有すること〉などの意味があり、中国語の慣用句の「手」には、〈人〉〈手段・方法〉〈腕前〉〈手元〉〈支配下〉などの意味があることを指摘した。

しかし、ベトナム語では、「手」を含む慣用句も多数を占める。『Từ điển thành ngữ Việt

Nam』(1993)というベトナム語慣用句辞典には、人の「手」を表す慣用句が193例収められている。これらの慣用句はベトナム語の言語全般や特にベトナムの成句の宝庫を豊かにし、美しくするのに寄与していると言われる。（「Liên hiệp các Hội Khoa học và Kỹ thuật Việt Nam」というベトナムの新聞のニュースサイトからの筆者訳）

現在、日本語とベトナム語における「手」を使った慣用表現についての研究はまだ少ないため、この論文では、両国の「手」に関する慣用表現を個別に比較し、それぞれの違いを明らかにする。

2.2. 研究の方法と研究範囲

本研究では、次の2つの日本語とベトナム語の慣用句辞典から「手」が含まれる慣用句を検討および分析する。

- 秋山宣夫・秋山キャロル (1996) 『2001 日本語慣用句・英語イディオム』タトル商会。
- Từ điển thành ngữ Việt Nam (1993) (Nhu Ý Nguyễn, Văn Khang Nguyễn, Xuân Thành Phan)

辞書から「手」に関連する日本語とベトナム語の慣用句を調査したところ、日本語は83句、ベトナム語には110句あった。これらの慣用句について、まず、メタファーとメトニミーに基づいて2つの言語の類似した意味拡張を取り出す。そして、日本文化とベトナム文化の比較に基づいて、同異点を明らかにする。

3. 日本語とベトナム語における意味拡張のプロセス

3.1. メタファー、メトニミーの定義と例

メタファー（隠喩；Metaphor）はギリシャ語の「meta（～を超えて）」と「-phorein（運ぶ）」に由来している。メタファーは「類似性」、つまり「たとえるもの」と「たとえられるもの」が似ている関係によって結ばれる比喩である。靱山（2002）は「メタファーとは、二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩」と定義する。靱山の定義では、「類似性」というのは二つの対象の間に性質の共通性を見出し、表すことであると考えられる。

例えば、「孫の手」は「手」の意味が「人体の手」の意味ではない。「長さ50-60センチメートルほどの棒の端を手首の形に造り、背中など手の届かない所を搔くに用いる具」という意味へ拡張されている。孫の手の形状が手に似ているため、形状の類似性によるメタファーによって、身体部位の「手」から「道具」の意味に拡張されたと考えられる。

メトニミー（換喩；Metonymy）は「隣接性」つまり、「たとえるもの」と「たとえられ

るもの」とが「つながっている関係」に基づいて転義を起こす比喩である。靱山・深田（2003）は、メトニミーは二つの事物の外界における隣接性、さらに広く二つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩であると述べている。

例えば、中小企業はどこも手が足りなくて困っている。（意味：人手が足りない）。この例では「手」は「手伝う人」や「作業や役割をする人」、つまり、「人間全体」を表し、部分—全体関係に基づくメトニミー表現に当てはまる。その意味は人間が、普段、作業や労働をするとき、「手」を「道具」として使うことから由来していると推測できる。

この定義はベトナム語のメタファーとメトニミーにも当てはまる。

3.2. メタファー、メトニミーと「手」を含む慣用句の意味分析

メタファーとメトニミーを分析することで、「手」を含む両言語の「慣用句」の意味拡張を特定して、次のような同様の意味が導き出される。

意味拡張	日本語	ベトナム語
1. 所有・支配を表す	手に入れる 「自分のものにする」 メタファーとメトニミー	<u>hót tay trên</u> （上腕を取る）＝ ＞他人から有利な所有権を奪う メタファー
2. 動作をする人・労力を表す	手が足りない 「人手が足りない」 メトニミー	<u>tay làm hàm nhai</u> （手は働き、顎は噛む）＝＞生計を立てるために動作をする人 メトニミー
3. 手数・手間を表す	手を抜く 「手数を省き、いい加減にことをする」 メトニミーとメタファー	<u>bóc lửa bỏ tay người</u> （人の手に火を置く）＝＞人に手数を掛ける メタファー
4. 腕前を表す	手を上げる 「手の位置を高くする」 メタファー	<u>tay năm tay mười</u> （五手十手）＝ ＞同時に多くのことを行う腕前 メトニミー
5. 能力を表す	手に負えない 「自分の力ではとても処理できない」 メタファー	<u>bó tay bó chân</u> （手足を縛る）＝ ＞何か物事をやる不能力 メタファー
6. 力、助力を表す	手を借りる 「手助けしてもらおう」 メトニミー	<u>tay thầy tay thợ</u> （専門家の手）＝ ＞ 専門家に助けや助力を頼む メトニミー
7. 暴力を表す	手を上げる 「暴力を振るう」	<u>thượng cẳng tay, hạ cẳng chân</u> （前腕をあげり、脚下を下げ

	メトニミー	る) =>暴力を振るう メタファー
8. 同盟・約束・協力・提携を表す	手を組む 「お互いに手を繋ぐ」 メタファーとメトニミー	góp sức chung tay (協力和手を合わせる) =>協力和手を合わせる メトニミー
9. しはじめる・着手を表す	手を付ける 「物事に着手する」 メトニミー	nhúng tay vào (手を浸す) =>特定の作業や事柄に介入、参加、または関連する行為を指すために使用される メトニミー
10. 関係断絶を表す	手を切る 「今までの関係を絶つ。特に、男女の縁を切る」 メタファー	buộc chỉ cổ tay (手首に糸を結ぶ) => 誰かと関係を持つのをやめる メタファー

表2 「手」が用いられた両言語で同じの意味拡張

そして、日本語でのみ利用でき、ベトナム語では利用できない意味分析もある。

1. 窃盗を表す	手を出す 「手を一定の方向へ出るようにする」と、「物を盗む」 メトニミー
2. 手段・方法・策略を表す	手を尽くす 「物事の実現や解決のために、あらゆる手段を試みる」「可能な限りの手段方法を取る」 メトニミー

表3 「手」が用いられた慣用句でベトナム語にない日本語の意味

日本語の「手」に関する「慣用句」とそれと対照するベトナム語の「手」の慣用表現の意味拡張について考察を行った。方法として、日本語の「手」の機能により派生した意味の主なタイプと、それに対応するベトナム語の例を提示しながら意味分析を行った。その結果、「手」が用いられた日本語とベトナム語の慣用句には、同様の意味拡張がたくさんある。そして、日本語では、メトニミーによる意味拡張がほとんどであるのに対して、ベトナム語では、メタファーとメトニミーがほぼ同じ数で使用される。提示した日本語の例文中、12の用例のうち6例はメトニミー、3例はメタファー、3例はメタファーとメトニミーの両方が関わっている表現であった。一方、ベトナム語の場合、10例のうち5例はメタファー、5例はメトニミー、0例は両方に関わる用例であり、両言語において意味拡張の差異が見られた。

4. 文化的特徴に関連する違い

4.1 「手」が用いられた両言語の「慣用句」における意味に関連する

計的方法を使用して、次のような表—「手」がある両言語の「慣用句」における意味の数を作成していく。

意味	日本語	ベトナム語
プラスの意味 (賞賛、感心、善意、幸運、忍耐、…)	50 (60.3%)	44 (40%)
マイナスの意味 (非難、批判、失跡、不平、…)	28 (33.7%)	64 (58.2%)
中立、普通 (状態：暇、…)	5 (6%)	3 (2.8%)
	合計 83	合計 110

表4 「手」が用いられた両言語の「慣用句」における意味の数

この表を見ると、「手」に関する慣用句が日本ではプラスの意味が多くに対して、ベトナム語ではマイナスの意味の方多い。その原因はおそらく以下のような理由だと思われる。ベトナム人は、悪いものや醜いものを見つけて説明し、名前を付けると同時に、軽蔑や批判を表現することに多くの注意を払う (Vũ, Nguyễn 2019)。そのため、ベトナム語の慣用句には批判、警告、教訓の性質を持つものが多いと思われる。「手」が含まれる慣用句も例外ではない。また、ネガティブなことは人々の注意を引きやすく、口伝えで広まりやすいため、ネガティブな意味を持つ慣用句が多く作られ、普及しているのだと思われる。

一方、ベトナム人の性格が悪いことに目を向け、問題点を見つけて非難し、戒めることが多いのに対し、日本人の性格は昔から礼儀と敬意を重んじる傾向があると一般的に言われている。これが違いの一因であると筆者は考える。また、日本語の「手」に関連する慣用句表現には、努力や忍耐を表すものが多いと感じている。例えば、「手に入れる」、「押しの手で」、「手を尽くす」など。さらに、「手を組む」、「手に手を取って」、「手取り足取り」、「手を結ぶ」など団結や協力を意味する表現も多くある。これらのことから、「手」に関する日本語の慣用句には、努力を奨励し、団結の精神を大切にするような表現が多く見られることがわかる。

4.2 「手」と「足」の両方を含む慣用句に関連する

「手」を含むベトナム語の慣用句に関連する注目すべき点の1つは、「足」をよく伴うことだ。以下の円グラフを参照されたい。

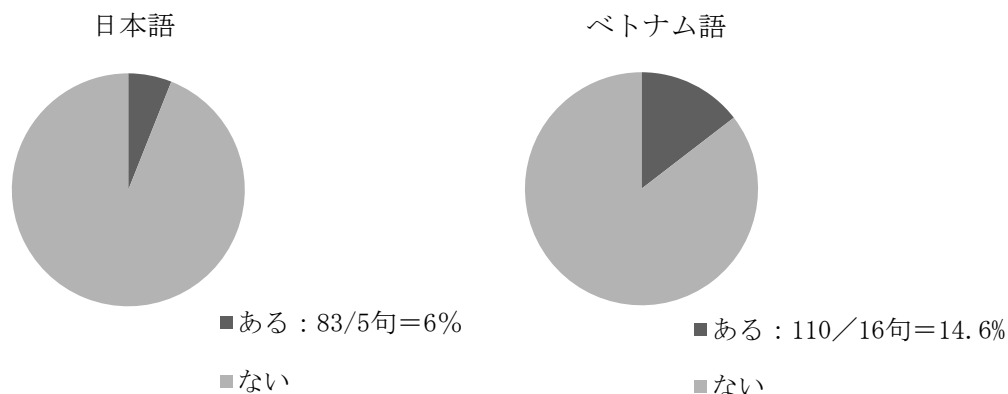


図1 「手」と「足」の両方を含む慣用句の数

この円グラフを見ると、ベトナム語で「手」と「足」の両方を含む慣用句は、「手」がある慣用句のほぼ6分の1を占める。一方、日本語ではその数は少ない。その理由としては、次のことが考えられる。ベトナム人は言語の調和とバランスを愛する傾向がある (Vũ Đức Nghiệu, Nguyễn Thị Dung 2019)。そのため、慣用句では、調和を示すために手と足を一緒に示すことがよくある。例えば、chân bùn tay đất (足泥手土)、chân yếu tay mềm (弱い足柔らかい手)、bó chân bó tay (足を縛り手を縛り)。また、ベトナムの文化は稲作文化に属してるから、農民の苦労を表すと同時に努力を讃える「手と足」を使った慣用句が多く存在する。例えば、chân bùn tay đất (足泥手土)。これは言語の中で必然的に反映されている現実だ。

一方、日本人は手や足を使った労働に比べて知識を尊重する傾向が強いと感じられる。真面目な仕事ぶりと知恵のある人々で知られる日本は、資源が不足する中で驚異的な知恵と優れた手腕を発揮し、強力な工業国を築き上げてきた (Nhóm sinh viên thực tập 5 2022)。そのため、日本語の慣用句で「手」と「足」が一緒に使われることが少ない一つの理由だと思われる。

5. まとめ

研究を通して、日本語とベトナム語の慣用句には共通して「手」が含まれるものが多いことを示した。両言語を比較した結果、両国における意味拡張には多くの類似点があることが明らかになった。基本的に、手の機能、動き、状態からメタファーとメトニミーを使ってさまざまな意味が生み出される。また、意味拡張における類似点と相違点を見出すことで、慣用句におけるメタファーとメトニミーの違いも認識した。特に日本語ではメトニミーが多く

使用され、そして、ひとつの慣用句の中にメタファーとメトニミーの両方が含まれる場合も多い。さらに、「手」が含まれる両国の慣用句の違いには文化が関係していることが示唆された。ベトナム人はしばしば悪い点に焦点を当て、警告や強い印象を与えるために慣用句を使って、聞き手に忘れにくくさせる傾向があるため、「手」が含まれる慣用句はネガティブな意味合いを持つことが多いのではないだろうか。一方、「手」に関連する日本語の慣用句は、ポジティブな意味を持つものが多く、その理由は、努力を奨励し、楽観主義を重視し、団結の精神を大切にするという意味の慣用句が多いからではないだろうか。これにより、日本人の美德の一端がうかがえる。また、ベトナムの稲作文化の影響で、「手」と「足」の両方が含まれる慣用句が多く (Nhóm sinh viên thực tập 5 2022)、そのため「手」が含まれる慣用句の数が日本語よりも多くなっていると考えられる。

今後は、日本語にないベトナム語の意味拡張についてさらに研究していきたい。さらに、文化の違いを明確にしていきたい。

参考文献

- イーゴリ (2018) 「慣用句における文化的要素の受容の問題」 エッセイ、国際日本文化研究センター、巻 60, pp. 31-35.
- 呉琳 (2019) 「日中慣用句における「手」の意味拡張」 『愛知大学中日大辞典編纂所『日中語彙研究』第9号 pp53-65.
- 程 長善 (cheng changshan) (1996) 「日本語慣用句の語彙的な特徴に関する一考察」 『経営研究』第9巻、第3号 pp. 456-457.
- ファルザネ モラデイ (2014) 「身体語彙を含む日本語の慣用句の分析：ペルシア語との対照を通して — 「目」「手」「口」「身」を用いた表現を中心に—」 『一橋大学大学院 言語社会研究科』甲第 816 号 pp. 77-90.
- ファルザネ モラデイ (2016) 「「手」を含む日本語の慣用句の分析 —ペルシア語の「-心/dast/手」との対照を通して—」 『一橋日本語教育研究』 4 号 pp. 207-216.
- 糸山洋介・深田智 (2003) 「意味の拡張」 『認知意味論—シリーズ認知言語学入門』第3巻
- Hồ Thị Hoài Nam (2017) 「日本語における数字を表す言葉を使った慣用句—ベトナム語との比較—」 修士論文、ハノイ国家大学外国語大学
- Vũ Xuân Thịnh, Trần Lê Trang (2020), 「日本語のことわざ及び慣用句における「目」の考察—ベトナム語のことわざ及び慣用句における「mắt」との比較」, FPTU Hà Nội

Vũ Thiên Hương (2022) 「日本語における身体語を含む慣用句（ベトナム語との対照）－「目」の慣用句を中心として－、Thành ngữ chứa từ chỉ bộ phận cơ thể trong tiếng nhật (đối chiếu với đơn vị tương đương trong tiếng việt)－thành ngữ chứa yếu tố mắt－」, ĐHQGHN - Trường Đại học Ngoại ngữ

(ベトナム語資料)

Ngô Minh Thủy (2002) *Về một hướng đi trong nghiên cứu so sánh đối chiếu thành ngữ*. Tạp chí khoa học (1)

Ngô Minh Thủy (2005) *Con mắt trong thành ngữ tiếng Nhật*. Ngôn ngữ và đời sống (8)

Vũ Đức Nghiệu, Nguyễn Thị Dung (2019) *Hàm ý khen, chê con người trong thành ngữ tiếng Việt*. Tạp chí Khoa học ĐHQGHN, Khoa học Xã hội và Nhân văn 25 (2009) pp.86

Nhóm sinh viên thực tập 5 (2022) *Cụm từ cố định có chứa từ chỉ «tay», «chân» trong tiếng việt (trong sự đối chiếu với tiếng Nhật)*. Trường đại học Ngoại thương, pp.13-17

<要約>

Thành ngữ được cho là một đề tài thú vị cho các nhà nghiên cứu ngôn ngữ học. Thành ngữ phản ánh nét văn hóa đời sống của người dân nên nghiên cứu về thành ngữ sẽ giúp ta nhận ra được những sự khác biệt trong văn hóa cũng như con người của một quốc gia. Với bối cảnh thành ngữ đang được các nhà ngôn ngữ học nghiên cứu rất nhiều về các đề tài khác nhau, thế nhưng những thành ngữ liên quan đến từ “tay” giữa hai ngôn ngữ Nhật Bản và Việt Nam lại khá là ít, tôi đã chọn đề tài này để nghiên cứu và làm rõ xem liên quan đến thành ngữ có từ “tay” giữa hai ngôn ngữ thì sẽ có những điểm giống và khác nhau như thế nào. Kết quả là, trong tiếng Nhật và tiếng Việt, có nhiều thành ngữ chứa từ “tay” có sự mở rộng ý nghĩa giống nhau. Ngoài ra, thành ngữ có chứa từ “tay” trong tiếng Nhật được mở rộng nghĩa từ hoán dụ nhiều hơn, và trong một thành ngữ có thể vừa có cả nét ẩn dụ và nét hoán dụ. Trái với tiếng Việt thì sự phân bố ẩn dụ và hoán dụ có vẻ ngang bằng nhau, và ý nghĩa của một câu thành ngữ chỉ có thể là từ hoán dụ, hoặc chỉ có thể từ ẩn dụ tạo thành.

Hiếm thấy trường hợp xuất hiện cả hai. Ngoài ra khi xem xét về những khía cạnh khác nhau liên quan đến văn hóa, tôi nhận thấy trong thành ngữ có chứa từ “tay” của tiếng Việt, ý nghĩa tiêu cực mang nhiều hơn và thành ngữ từ có từ “tay” thì thường đi với từ “chân” trong khi tiếng Nhật rất ít. Điều đó có phải đã cho thấy nét văn hóa của người Việt Nam thường hay chú tâm vào điều tiêu cực để răn đe, và để tạo ấn tượng mạnh với người nghe hơn so với việc thường hay có xu hướng truyền nhau sự tích cực để khích lệ mọi người hơn như trong thành ngữ tiếng Nhật. Ngoài ra, việc “tay” thường đi chung với “chân” có thể cho thấy việc thích sử dụng từ ngữ có sự đồng điệu của Việt Nam; hơn nữa còn phản ánh sự lao động cực khổ bằng tay chân của người dân bắt nguồn từ nền văn hóa lúa nước của ông cha ta.

Hì vọng bài nghiên cứu này giúp cho mọi người có cái nhìn tổng quát về thành ngữ tiếng Nhật có chứa từ “tay”; những sự giống và khác biệt về nét văn hóa có trong thành ngữ đã nêu trên sẽ giúp mọi người có thêm niềm đam mê, hứng thú để học và nghiên cứu thành ngữ. Vì nó là một kho tàng quan trọng trong đời sống ngôn ngữ của bất kì quốc gia nào.

日本およびタイにおける性と生殖に関する健康と権利の比較

—妊娠中絶を中心に—

チャルンサク ピムピッチャー

1. はじめに

昔から女性の役割の一つが妊娠、出産と子育てである。しかし、全ての女性に出産の意志があるわけではない。にもかかわらず、強制的な性交や周囲のプレッシャーが原因で妊娠することもある。それで、女性たちは妊娠中絶の意志を持つようになった。

毎年、七千万人が妊娠中絶を決断しており (Jonathan Bearak 2020)、妊娠した女性の4人に1人が中絶に至っている。妊娠中絶は多くの国で合法ではないが、自分の体を危険にさらしてまで中絶を受ける女性がいる。日本とタイにおいては、妊娠中絶は合法であるが、多くの条件がある。そして、法律に従わない場合、罰則もある。妊娠中絶という話題は社会的に避けられるべきとされていることから、自身の意見を言うことをおそれる傾向にある。しかし、筆者は女性に大きな影響を及ぼすことから、重要なものであると考えており、議論されるべきであると考えている。

前述したように、筆者は、妊娠中絶することは女性の権利の一つであると思うことから、賛成の立場である。しかし、現状では妊娠中絶を全然認めない人もおり、中絶の希望があっても難しいことがある。そこで、本研究は、まず日本とタイにおける妊娠中絶の権利についての理解を深めることを目的とする。そして、妊娠中絶に対する社会の人々の意見を調査し、分析する。この研究を通じて、中絶に関する権利の不足を訴え、現在の規則が人々の希望に十分に応えられているかを明らかにしたい。本研究によって、日本とタイにおける中絶の状況についての認識を高め、不平等という壁を破る第一歩を目指したい。

2. 先行研究

2. 1. 性と生殖に関する健康と権利の定義

グッドマザー・ランセット委員会^①によると、「性と生殖に関する健康と権利」とは、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR)」から訳され、女性のライフステージを通して、単に疾病、機能障害、虚弱がないというだけでなく、セクシュアリティと生殖のすべての局面で、身体的、感情的、精神的、社会的に良好な状態にあることである。自分の身体に関する全てのことが、当事者である女性が選択し、自己決定できる権利のことである。

2. 2. 妊娠中絶の状況

2. 2. 1. 日本における状況

厚生労働省が2023年10月31日に公表した衛生行政報告例(母体保護関係)によると、2022年度の

人工妊娠中絶件数は122,725件で、前年度に比べ3,449件(2.7%)減少している。「20歳未満」について年齢別にみると、前年と比べて476件(5.2%)増加して「19歳」が4,620件と最も多く、次いで「18歳」が2,442件となっている。

2. 2. 2. タイにおける状況

タイは年ごとの統計がないが、ガットマッハー研究所によると、2015年から2019年まで、毎年、合計約134万件の妊娠があったことが報告されている。このうち67万9,000件が望まない妊娠で、43万7,000人が中絶に至っている。

2. 3. 妊娠中絶の規制

2. 3. 1. 日本の妊娠中絶の規制

1948年に中絶に関する法律が定められており、日本は世界で最も早く制定された国の一つである。しかし、女性の権利を支持する目的ではなく「劣生」の防止を目指す目的で行われていた。

現在、妊娠中絶に関する権利とその法的条件は現行の「母体保護法」に基づいている。妊娠中絶または人工妊娠中絶の定義は「胎児が、母体外において、時期に、人工的に、胎児及びその附属物を母体外に排出することであり、医師会の指定する医師は本人及び配偶者の同意を得て、人工妊娠中絶を行う。しかし、自由に妊娠中絶できるわけではなく、条件がある。妊娠中絶の条件に関して、身体的または経済的理由による健康への著しい損害が予測される場合や、暴行、脅迫、抵抗、または拒絶ができない状況での姦淫によって妊娠した場合などが挙げられる。そして、中絶できる妊娠週数は22週未満となっている。

同意に関しては、World Health Organizationのデータベースによると、妊娠中絶を認める国のうちに日本が配偶者の同意を必要とする15か国の一つである(Benoza 2023)。しかし、配偶者の同意が必要ない場合もある。配偶者が分からない場合や意思が表示できない場合、または妊娠後に配偶者がなくなった場合には、本人の同意だけで十分であると法的に規定されている。しかし、NHKニュースによると、結婚していない中絶を決意したある女性が病院から相手の男性のサインを求められた件がある。

中絶の罰則については、出産する前、人為的に胎児を母体から分離・排出する罪は墮胎罪ということである。墮胎罪は四つの罪に分かれる。自己墮胎罪、同意墮胎罪、業務上墮胎罪と不同意墮胎罪・不同意墮胎致死傷罪である。自己墮胎罪は1年以下の懲役、同意墮胎罪は他の者が妊娠中の女性の依頼・承諾を得て行った場合は2年以下の懲役が課せられる。業務上墮胎罪では医療関係者が女性の同意を得て墮胎した場合、3ヶ月以上5年以下の懲役が科せられ、不同意墮胎罪・不同意墮胎致死傷罪では妊娠中の女性の同意なく墮胎を行った者は6ヶ月以上7年以下の懲役が課される。

2. 3. 2. タイの妊娠中絶の規制

タイの刑法第301-305条に基づき、法律は人工妊娠中絶に関する規定がある。医学会の原則に基づく医師の行為で妊娠12週以内は人工妊娠中絶を可能とする。中絶の条件には、女性の妊娠が身体または精神に危険をもたらす場合、胎児が出生した場合に重度の障害となる危険性が高い、または信じるに足る医療上の事由がある場合、妊娠が12週以内で女性が中絶を主張する場合である。そして、医師による検査および選択的な助言の後、妊娠が12週超20週以内で女性が中止を主張した場合も中絶できる。

墮胎罪については、三つある。まず、自己墮胎罪である。自己墮胎罪は妊娠12週を超えて妊娠中絶した女または他の者に妊娠中絶させた女は6カ月以下の懲役もしくは1万バーツ（約4万円）以下の罰金に処し、または懲役および罰金を併科する。次に、同意墮胎罪は5年間以下の懲役もしくは10万バーツ（40万円）以下の罰金に処し、または懲役および罰金を併科する。最後の罪は、不同意墮胎罪で、7年間以下の懲役もしくは14万バーツ（56万円）以下の罰金に処すか、懲役および罰金を併科する。

タイでは、中絶に国民保険が使えることから、無料で中絶することが可能である。しかし、中絶は容易ではない。妊娠中絶を認めない病院や医師もいるためである。

2. 4. 妊娠中絶に関する意見

2. 4. 1. 日本人の意見

イブソス^②によると、調査を対象の日本人にとって妊娠中絶は合法であるべきということに賛成する人は46%であり、妊娠中絶は違法であるべきということへの賛成率は8%であった（イブソス2023）。

そして、認められる中絶の理由の調査によると、最も認められる理由の場合は76%でレイプによる妊娠の場合である。また、最も認められた週数は6週目までで、34%である。

厚生省心身障害研究の「人工妊娠中絶への対応に関する医療機関調査」によると、産婦人科臨床医と産婦人科外来患者を対象として調査した。この結果、医師は経済的な理由、避妊失敗や母体の病気などの理由を認めていた。一方、外来患者の方は、母体の病気と経済的な理由しか認めていないことである（荒堀1995）。

次に、NHKの「産婦人科医に聞く、日本の中絶医療の課題」では、医師の中絶のタブー視について述べていた（NHK n.d.）。佐久間航が医師の中に中絶のタブーについて質問した際、例えば、中絶で稼ぐことは二流や三流の医師であるという風潮があるそうだ。そして、中絶が汚れ仕事だと思った医師もあるとのことである。佐久間航は中絶する仕事が昔の打ち首を行うことと同じようだと述べた。

最後に、NHKが配偶者の同意について調査したところ、62%が状況によって相手の同意を求めないこともあることが明らかになった。また、33%がどのような状況でも同意を求めることが分かった。同意の規定の変更についての調査の結果は変更するべきだと考える人が55%で、自己決定を尊重したいからである。撤廃するべきではないと考える人は45%で、中絶が容易になる恐れがあるからである（NHK2023）。

2. 4. 1. タイ人の意見

イブソスの中絶についての調査はタイでも行われた。その調査の結果によると、タイでの中絶に賛成する人は41%、反対は37%であった。認められる中絶の理由の場合についての調査結果は、女性の生命や健康を脅かす妊娠の場合の賛成率は70%で、最も高かった。その上、認められた中絶の妊娠週数である。妊娠6週目まで妊娠中絶を認められるのは56%である。（イブソス2023）。

次に、男性325人を対象として中絶の意見についてのアンケート調査によると、（女性や男性の）意志がない妊娠の場合も妊娠を続けてほしいと考える男性は100%であった。また、性犯罪を原因とする妊娠の場合なら、中絶の賛成率は74.5%である（Pattaraporn Sitthai 2004）。

続いて、産婦人科医 11 人と教師の中絶に関する考え方が 3 つのグループに分けられることが分かる。一つ目のグループは保守的 (Conservative) である。このグループは中絶が悪いことで、危なく、人を殺すことと同じ行為だと信じている。中絶するのは宗教の罪である。二つ目のグループ自由主義的 (Liberal) で、それぞれ自分の理由があると信じており、中絶は個人的なことであるから関与するべきではないと考える。そして、子供を育てるための準備の方が大切であるから、妊娠したくないなら、中絶した方がいいと主張する。最後のグループは中立的 (Neutral) である。このグループの人は強い理由があれば、中絶を認められるとする。しかし、その産婦人科医が中絶を行いたくないと考えられる。

最後に、タイは仏教国である。仏教では、妊娠中絶は命を奪うことであり、認められないと考える人が多い。仏教では、人は性交から始まると考えるからである (Annalin Kamolnathakit 2022)。

3. 調査結果

妊娠中絶と中絶の規制に対する社会の人々の意見を理解のため、5月にグーグルフォームで13の質問についてオンライン調査を実施した。10代から60代以上の日本人138人とタイ人120人を対象とした。

3. 1. 回答者の背景

3. 1. 1. 日本人

回答者のうち、94人(約68%)は女性で、42人(約30%)は男性、その他・回答しない人は2人(約1.4%)であった。20代の回答者が最も多く、約29%を占めている。約71%の回答者は無宗教である。回答者の職業が学生(約40%)、または、会社員(約28%)が多かった。また、約3割の人が中絶したことがある人の直接知り合いがある。

3. 1. 2. タイ人

回答者の性別は男性より女性の方が多く、女性の割合は87人(約72.5%)、男性は27人(約22.5%)で、その他・回答しない割合は6人(約5%)であった。約47%の回答者は20代であり、約90%の回答者は仏教徒であった。日本と同様、回答者の職業で最も多いのは学生と会社員であった。また、27%の回答者は中絶したことがある人の直接知り合いがいると答えた。

3. 2. 中絶に関する考えの調査結果報告

本研究では、7つの項目を分析した。以下3.2.1.～3.2.7.で詳しく見ていく。

3. 2. 1. 中絶できる妊娠週数に関する意見

	日本 (人)	タイ (人)
4 週数以内	9.5% (13)	30.8% (37)
8 週数以内	20.1% (28)	25% (30)
12 週数以内	30.4% (42)	21.6% (26)
20 週数以内	10.8% (15)	2.5% (3)
中絶に反対	8.7% (12)	15.8% (19)

表1 認められる妊娠週数

日本人の内、約30%の人が認められる妊娠中絶の週は12週までと回答した。これは20代が最も多く、約43%である。一方、タイ人の場合は日本人より短く、4週以内と答えた人約30%を占めている。約55%の10代のタイ人は「4週以内」を選び、40代から60代以上のタイ人においても同様に結果であった。9ヶ月でも中絶を認められると答えた年代は40代の日本人と、20代のタイ人であった。

現在の規制と比較すると、アンケートの結果の方が短いことが分かる。タイも日本も最も認められる週数のうち最も多いのは妊娠の第一期間、つまり、12週までである。それに、年齢とタイ人の認められる程度は仏教と関係があると考えられる。タイは仏教国であり、お年寄りのほうが若者より信仰心が強い (Pew Research Center 2023)。そして、仏教では人間性が性交から始まると信じられる。つまり、中絶するのは命を奪うことと見なされる。これにより、仏教の理由で認められる妊娠週数が短くなるのである。

3. 2. 2. 認められる中絶理由

理由	日本 (人)	タイ (人)
性犯罪	84.7% (117)	85% (102)
母親の身体的健康	82.6% (114)	76.6% (92)
母親の精神的な健康	76% (105)	50.8% (61)
胎児の健康	59% (82)	85% (102)
経済的な不安	47.8% (66)	47.5% (57)
避妊の失敗	42.7% (59)	56.6% (68)
子供が欲しくない	28.9% (40)	31.6% (38)
未婚	23.1% (32)	22.5% (27)
中絶に反対	4.3% (6)	10% (12)

表2 認められる中絶の理由

日本人は性犯罪の場合に中絶を認めると答えた割合が最も高く、日本人は母体の身体的および精神的な健康など、母体の体に関する理由を重視することが分かった。一方、一方、タイ人は性犯罪と胎児の健康であった。タイ人は母体の健康より胎児の健康を大切にするとと言える。中絶に反対と回答したタイ人は約10%で、日本は2.9%である。しかし、中絶に反対と考えているタイ人の内、半数は性犯罪や母体と胎児の健康のために中絶することは認めるべきだと回答した。避妊の失敗、子供が欲しくないといった理由や未婚など日本の規制に指定されていない中絶理由は認める人の割合が少ない結果となった。日本の場合、中絶に反対と回答した人は、様々な理由がある。例えば、性犯罪や健康上の理由である。さらに、子供が欲しくないなら中絶することに納得できると回答する人もいた。

3. 2. 3. 中絶する人に対する考え

「しない方がいい。もっと良い方法がある」、「避妊に関する不注意な人」、「悪い人」、「その人の決定だから特別な意見はない」、「よく考えた決定だから、良いことだ」と「社会に責任を持っている人」の6つの選択肢を、「肯定的」、「中立的」、「否定的」の3つに分けた。

			肯定的 (%)	中立的 (%)	否定的 (%)				肯定的 (%)	中立的 (%)	否定的 (%)
日本	10代	女	13	47.8	39.1	タイ	10代	女	83.3	0	16.6
		男	0	0	100			男	66.6	0	33.3
		*	50	0	50			20代	女	71.5	21
	20代	女	21.7	34.7	43.4		男		91.6	8.3	0
		男	35.2	23.5	41.1		*		100	0	0
	30代	女	42.8	28.5	28.5		30代	女	0	50	50
		男	50	50	0			男	50	0	50
	40代	女	13.3	46.6	40		40代	女	26.6	46.6	26.6
		男	37.5	37.5	25			男	25	0	75
	50代	女	31.2	37.5	31.2		50代	女	30	40	30
		男	0	60	40			男	75	25	0
	60代	女	31.2	50	20		60代	女	25	25	50
		男	20	20	20			男	0	50	50
	合計		30.4	38.1	33.3		合計		57.9	26.4	15.7

*その他・回答しない

表3 中絶する人に対する考え

中絶する人に対する日本人の意見は「中立的」が最も多く、約38.1%である。一方、タイ人は「肯定的」が最も多く、約57.9%であることがわかった。

日本人の女性は「中立的」が最も多く、男性は「否定的」が最も多い結果となった。その他・回答しなかった回答者は「肯定的」と「否定的」が同じ割合であった。年齢別に見ると、10代と20代は「否定的」、30代は「肯定的」であり、40代から60代以上は「中立的」という結果が出た。

一方、タイ人は女性も男性もその他・回答しない回答者も「肯定的」であった。年齢別にみると、日本とは反対の結果となった。10代と20代のタイ人は「肯定的」であるが、30代と60代の視点は「肯定的」である。40代の視点は「中立的」と「否定的」が同じ割合である。50代は「肯定的」と「中立的」が同じ割合である。「肯定的」の視点の回答者の性別と比べて、日本もタイも、女性より男性の方が多くことがわかった。

また、国の方針につながる政治関係者の立場は中立で、病院関係者は肯定的な立場の人もいれば、否定的な立場の人もいた。宗教が中絶する人に対する人の立場に影響があるかどうかは証明できなかった。

3. 2. 4. 中絶に対する考え

中絶に対する意見を分析するため、以下の調査を行った。

	日本 (%)				タイ (%)			
	女	男	*	合計	女	男	*	合計
どのような理由においても中絶は合法であるべき	26.6	47.6	50	33.3	51.7	44.4	50	50
どのような理由においても中絶は違法であるべき	1	2.3	0	1.4	1.1	7.4	0	2.5
中絶は個人的なことだから関与しない方がいい	23.4	21.4	0	22.4	41.3	55.5	66.6	45.8
中絶した人は自責の念を感じるべきだ	6.3	9.5	0	7.2	1.1	3.7	0	1.6
中絶することは当たり前だ	6.3	4.7	0	5.8	28.7	40.7	83	34.1
中絶は恥ずかしいことだ	1	2.3	0	1.4	0	0	0	0
中絶を決断した人は酷い人だ	0	0	0	0	0	0	0	0
中絶は殺人だ	4.2	7.1	0	5	3.4	3.7	0	3.3
中絶は宗教の罪だ	0	0	0	0	12.6	14.8	0	12.5
中絶は不道德だ	1	0	0	0.7	11.4	11.1	0	10.8
中絶するなら誰にも知らせないほうがいい	7.4	0	0	5	1.1	7.41	0	2.5
中絶を合法化すると、避妊しない性交がより一般的になる	17	4.7	50	13.7	14.9	14.8	0	14.1
意図せず妊娠してしまった場合、中絶以外の選択肢を選ぶことができる	45.7	33.3	50	42	18.3	33.3	0	20.83
中絶の合法化は社会の道徳を低下させる	5.3	2.38	0	4.3	3.4	11.1	0	5
子供を産むことは女性の義務の一つであるため、中絶すべきでない	0	2.38	0	0.7	2.3	7.4	0	3.3
男性も中絶に対して女性と同等の責任を負うべきだ	77.6	66.6	100	74.6	64.3	66.6	66.6	65

*その他・回答しない

表4 中絶に対する考え

日本人に最も支持されたのは「男性も中絶に対して女性と同等の責任を負うべきだ」約74.6%で、「意図せず妊娠してしまった場合、中絶以外の選択肢を選ぶことができる」約42%、「どのような理由においても中絶は合法であるべき」約33.3%が続いた。一方、タイ人は「男性も中絶に対して女性と同等の責任を負うべきだ」に約65%が賛成し、「どのような理由においても中絶は合法であるべき」約50%、「中絶は個人的なことだから関与しない方がいい」約45.8%が続いた。

「どのような理由においても中絶は合法であるべき」に賛成したタイ人の女性は大人の男性より多い結果となった。一方、同じ文に賛成した日本人の女性は男性より少ないと表している。タイ人の女性は日本人の女性より「どのような理由においても中絶は合法であるべき」に賛成する。しかし、男性の間と比較して、日本人の男性はタイ人の男性より「どのような理由においても中絶は合法であるべき」に賛成している。

「どのような理由においても中絶は違法であるべき」に賛成する女性の割合は日本人とタイ人で

ほぼ同じであった。一方、タイ人の男性は日本人の男性より「どのような理由においても中絶は違法であるべき」に賛成する割合が高かった。

また、「中絶は宗教の罪だ」、「中絶は不道德だ」、「中絶の合法化は社会の道徳を低下させる」という宗教に関する文に賛成するタイ人は日本人の2倍であることがわかった。また、タイ人の中絶に対する肯定的意見に賛成する割合は30代以上より10代と20代の方が高い。これは日本とは逆の結果である。

3. 2. 5. 中絶費用の負担

	日本 (%)	タイ (%)
本人	5	5.3
中絶する人の相手	5	6.1
政府の資金で中絶を支援すべきである	10.8	31.6
本人と相手	51.6	16.8
本人と資金	1.6	2.6
相手と資金	1.6	6.1
誰でもいい	24.1	30.9

表5 中絶費用の負担

調査によると、約31%のタイ人は政府の資金で中絶を支援すべきだと回答した。一方、51%の日本人は中絶費用が本人と相手が負担すべきだと考えている。しかし、場合に応じて決めるべきだと述べた人も多く見られる。また、一部は政府の資金で支援すべきだという意見もあった。

現在の日本の法律によると、基本的に中絶手術には、健康保険が適用されていない。しかし、タイでは保険が適用される。国と地域の法律によって中絶手術における費用の負担について差がある。例えば、アメリカでは、ある州は国民保険が適用される州もあればされない州もある。一方、フランスやイギリスなどのヨーロッパにある国は国民保険が適用される。

3. 2. 6. 中絶する際の配偶者の同意

	日本 (%)				タイ (%)			
	女	男	*	総計	女	男	*	総計
必要ない	45.7	45.2	100	52.8	36.7	33.3	50	38.9
いつも必要	14.8	5.3	0	15.7	20.6	40.7	16.6	26.5
既婚の場合だけ必要	26.6	5.3	0	22.7	33.3	22.2	33.3	32.7

*その他・回答しない

表6 中絶する際の配偶者の同意

「中絶する際は配偶者の同意（署名）が必要だと思いますか」という質問の結果について、約52%の日本人は「必要ない」と回答した。一方、タイ人は約38%である。日本人もタイ人も「必要ない」と回答した女性は男性より多い結果になった。

また、約45%の日本人男性は「署名が不要」に賛成した。一方、約40%のタイ人男性は「いつも必要」と回答した。日本の規制によると、中絶する際、既婚であれば、相手の署名が必要とされて

いる。しかし、多くの日本人はこの規制に反対している。一方、タイでは署名に関する規制が指定されていないが、一部の人々が中絶する際は配偶者の同意が必要だと考えている。

年齢別に見ると、日本人の中では年齢に関係なく「必要ない」が最も多く回答された。一方、10代と20代の多くのタイ人も「必要ない」と考えているが、30代以上では「既婚の場合だけ必要」という回答が最も多い結果となった。

3. 2. 7. 中絶のしやすさと安全性

	日本 (%)			タイ (%)		
	女	男	*	女	男	*
はい	4.2	21.4	0	25.2	37	0
いいえ	52.1	42.8	50	20.6	22.2	83.3
分からない	41.4	35.7	50	54.0	40.7	16.6

*その他・回答しない

表7 中絶のしやすさと安全性

「現在、中絶がしやすく、安全であると思いますか？」という質問の結果、日本人の50%が「いいえ」と回答した。なぜなら、中絶に条件があり、経済的負担も大きいからである。それに、中絶の問題についてはあまり触れられない印象があり、悪いイメージもあるからだ。また、中絶するのは健康上の不安につながる。一方、タイ人の49%が「わからない」と回答した。なぜなら、情報がなく、広報も不足しているからである。また、中絶について関心がないことが分かった。

性別から見ると、日本人の男性もタイ人の男性も女性より中絶がしやすく安全であると考えている。一方、「分からない」と回答した人は、女性の割合の方が多い結果となった。

4. 考察

中絶する人に対する日本人の視点は「中立的」が最も多く、10代と20代より30代以上の人が「肯定的」であった。90%の人は第一期間の妊娠の中絶を認めており、最も納得する中絶の理由は性犯罪と母体の健康であった。中絶に対して、3分の1の人はどのような理由においても中絶は合法であるべきだと主張する。また、多くの方は男性も中絶に対して女性と同等の責任を負うべきだと考えている。中絶する際に、本人、または、相手に負担をかけることに賛成する。現在の日本では中絶はしにくく、安全性が低いと見なされている。

一方、タイでは、10代と20代の方が中絶する人に関する考えが肯定的である。それに、約50%のタイ人はどのような理由においても中絶は合法であるべきだと考えている。しかし、3分の1の人が4週数だけの妊娠の中絶を認めている。タイ人にとって、最も認められる中絶の理由は性犯罪と胎児の健康である。また、30代以上のタイ人は中絶に対して若者より否定的であり、納得の程度も低い結果となった。タイ人は、中絶する際に政府が支持するべきだと考えている。現在、中絶に対するタイ人の認識がまだ低く、関心が薄いと言える。なぜなら、中絶のしやすさや安全性について理解していない人が多いからである。

調査結果から、日本とタイの規制は人々の要望に適合しているが、男性の負担や配偶者の同意は人々の意見に沿っていないことが分かる。

今後は、各年代についてさらに詳しく見ていくことで、年代ごとの考えや視点の違いについて個別に分析していきたい。

注

注1 グッドマッハーは、米国を本部に、性と生殖に関する健康と権利に関する研究、政策分析などを行っている研究所で、その研究・分析を、エビデンス・ベース（科学的根拠に基づいた）のアドボカシー（政策提言活動）に提供している。ランセットは権威ある英医学誌で、国際保健や臨床に関する特定の事項に関する委員会を数多く立ち上げ、さまざまな提言を行っている。このグッドマッハーとランセットが合同で2016年に立ち上げたが、本報告書をまとめた「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関するグッドマッハー・ランセット委員会（the Guttmacher-Lancet Commission on Sexual and Reproductive Health and Rights）」である。

注2 イプソスはフランス・パリに本社を置く多国籍市場調査コンサルティング会社である。この会社は2023年6月から7月まで世界で29国の23348人に対して妊娠中絶についての意見についてオンライン調査を行った。

参考文献

- 荒堀憲二(1995)「平成7年度厚生省障害研究「人工妊娠中絶への対応に関する医療機関調査」」 <<https://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/1995/h070811.pdf>>2024年7月12日閲覧。
- 厚生労働省(2022)「令和4年度衛生行政報告例の概況」『厚生労働省』。
- ジョイセフ(2022)「『セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)の新定義』のポイント」『JOICFP』 <https://www.joicfp.or.jp/jpn/column/srhr_definition2022/>2024年2月9日閲覧。
- 男女共同参画局(2000)「男女共同参画基本計画」『男女共同参画局』。
- 西岡笑子(2018)「わが国の性教育の歴史的変遷とリプロダクティブヘルス/ライツ」『日衛誌』 pp. 178-184。
- e-Gov 法令検索(n.d.)「母体保護法」『E-GOV 法令』 <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=323A_C0100000156>2024年2月9日閲覧。
- NHK(2022)「揺らぐ“中絶の権利”日本の現実」『クローズアップ現代』 <<https://shorturl.at/nEPS0>>2024年2月9日閲覧。
- NHK(2022)「あなたの知らない「わたし」の歴史」 <https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4700/#p4700_03> 2024年7月12日閲覧。
- NHK(2023)「コロナ禍の体験から考える私たちの健康」 <https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_1556.html>2024年7月12日閲覧。

(英語資料)

- Benoza Kathleen. (2023). *Consent issue casts shadow on safe abortion in Japan*. The Japan Times. <https://www.japantimes.co.jp/news/2023/09/28/japan/science-health/international-safe-abortion-day/>. Accessed 12 July 2024
- ipsos. (2023). *Global views on Abortion*. Ipsos. <https://www.ipsos.com/en/global-views-abortion>. Accessed 12 July 2024
- Jonathan Evans, Kelsey Jo Starr, Manolo Corichi and William Miner. (2023). *Buddhism, Islam and Religious Pluralism in South and Southeast Asia*. Pew Research Center https://www.pewresearch.org/religion/wp-content/uploads/sites/7/2023/09/pr_2023.09.12_se-asia_report.pdf. Accessed 12 July 2024

(タイ語資料)

- Annalin Kamolnanthakit, Patchaya Luedchaiyapark and Nattawut Suthiprapa. (2022). Legitimacy Abortion and the Concept of Immorality. Journal of Social Science for Local Rajabhat Mahasarakham University.
- Chuthamas Detkittikhajohn. (2010). *Teachers' Attitudes toward Adolescent Abortion*. College of Interdisciplinary Studies Thammasat University
- Guttmacher Institute. (2022). *country profile: Thailand*. <https://www.guttmacher.org/regions/asia/thailand>. Accessed 12 July 2024
- Jonathan Bearak Popinchalk, Bela Ganatra, Ann-Beth Moller, Özge Tunçalp, Cynthia Beavin, Lorraine Kwok, Leontine Alkema Anna. (2020). *Unintended pregnancy and abortion by income, region, and the legal status of abortion: estimates from a comprehensive model for 1990–2019*. Lancet Global Health, e1152–61.
- Sutthirak Naphaphan. (2019). Attitudes of Obstetricians towards Safe Abortion. Journal of Nursing and Health Research, 20(3), 3–14. <https://he01.tci-thaijo.org/index.php/bcnpy/article/view/204481>. Accessed 12 July 2024
- Pattaraporn Sitthai. (2004) Knowledge and attitude toward induced abortion among Thai men in Nakorn Ratchasima province. Mahidol University/Bangkok.

<要約>

การวิจัยครั้งนี้มีจุดประสงค์เพื่อศึกษาและเปรียบเทียบกฎหมายเกี่ยวกับการทำแท้งของประเทศญี่ปุ่น และไทย นอกจากนี้ยังศึกษาและทำความเข้าใจเกี่ยวกับความเห็นของคนญี่ปุ่นและคนไทยจากการทำแบบสอบถามออนไลน์ เพื่อวิเคราะห์ว่าปัจจุบันผู้คนมีความเห็นต่อการทำแท้งอย่างไร และกฎหมายสามารถตอบสนองความต้องการของสังคมได้หรือไม่

จากการทำแบบสอบถาม คนไทยจำนวน 120 คน และ คนญี่ปุ่นจำนวน 138 คน พบว่า มุมมองของคนญี่ปุ่นต่อการทำแท้งเป็นกลาง อีกทั้งผู้ที่อายุ 30 ปีขึ้นไปมีแนวโน้มของการทำแท้งเชิงบวกมากกว่าผู้ที่อยู่ในช่วงวัย 10-20 ปี เหตุผลในการทำแท้งที่ยอมรับได้มากที่สุด คือ การตั้งครรภ์เนื่องจากการล่วงละเมิดทางเพศและสุขภาพของมารดา ตามลำดับ นอกจากนี้ 1 ใน 3 ของผู้ตอบแบบสอบถามเห็นด้วยว่าการทำแท้งควรถูกกฎหมายไม่ว่ากรณีใดก็ตาม และส่วนมากเชื่อว่าผู้ชายควรรับผิดชอบต่อการทำแท้งเท่า ๆ ผู้หญิง ด้านค่าใช้จ่ายในการทำแท้ง พบว่าคนส่วนใหญ่มีความเห็นว่าให้ผู้ที่ทำแท้งหรือคู่ของผู้ทำแท้งเป็นคนจ่าย นอกจากนี้ผู้ตอบแบบสอบถามกว่าครึ่งคิดว่าการทำแท้งเข้าถึงได้ยากและไม่ปลอดภัย สำหรับความเห็นของคนไทยเกี่ยวกับการทำแท้งพบว่า ผู้ตอบแบบสอบถามช่วงอายุ 10-20 ปี มีความเห็นเชิงบวกต่อผู้ทำแท้ง คนไทยประมาณ 50% คิดว่าการทำแท้งควรถูกกฎหมายไม่ว่าเหตุผลใดก็ตาม อย่างไรก็ตาม 1 ใน 3 ของผู้ตอบแบบสอบถามยอมรับการทำแท้งที่ 4 สัปดาห์เท่านั้น เหตุผลในการทำแท้งที่ยอมรับได้มากที่สุด คือ การทำแท้งเนื่องจากถูกละเมิดทางเพศ และสุขภาพของเด็กในครรภ์ นอกจากนี้ คนไทยในช่วงอายุ 30 ปีขึ้นไปมีมุมมองเชิงลบต่อผู้ทำแท้งและการทำแท้ง ผู้ตอบแบบสอบถามส่วนใหญ่คิดว่าการทำแท้งควรได้รับการสนับสนุนจากรัฐ อย่างไรก็ตาม ปัจจุบันระดับความสนใจเกี่ยวกับการทำแท้งของคนไทยต่ำ เนื่องจากว่าครั้งไม่ทราบเกี่ยวกับการเข้าถึงและการทำแท้งเกี่ยวกับการทำแท้ง

จากการสำรวจพบว่ากฎหมายเกี่ยวกับการทำแท้งเป็นไปตามความต้องการของสังคมทั้งไทยและญี่ปุ่น แต่ข้อกฎหมายเกี่ยวกับความรับผิดชอบของฝ่ายชาย และการยินยอมของผู้สมรสไม่เป็นไปตามความต้องการของสังคม

ในอนาคต เชื่อว่าการเน้นไปที่การสำรวจแต่ละช่วงวัย และศึกษาความคิดของกลุ่มคนเหล่านั้นให้ลึกซึ้งยิ่งขึ้นจะเป็นประโยชน์มากขึ้น เนื่องจากสิ่งเหล่านี้มีผลต่อการเปลี่ยนแปลงกฎหมายและสวัสดิการเกี่ยวกับการทำแท้ง

三重弁における年齢差の実態調査 —否定形に焦点を当てて—

イルハム アクバル サエフロー

1. はじめに

現代国語辞典によると、方言とは一定の地域だけで用いられる言葉であり、標準語とは異なるアクセントや音韻的、語彙的、文法的な要素を持つ。東条（1953）は、日本の方言を本土方言と琉球方言に大別し、本土方言をさらに東部方言、西部方言、九州方言の三つに分類している。一方、三重弁は西部方言の近畿方言に位置づけられ、三重県の地理的特性から他地域と接触しやすいこともあり、北中部と南部で用いられる言葉の違いが見られる。このため、三重県内の方言は非常に多様であり、各地域で語彙や文法における独自性が顕著である。その中でも、「ヘン」、「ン」、「ヤン」といった否定を表す助動詞は三重弁の特徴的な要素の一つである。

日本の方言は標準語と異なるさまざまな要素を持ち、とりわけ日本語を第二言語として学ぶ人々にとって、その違いを理解し見極めるのは容易ではない。これは、日本語学校や母国で学習される日本語が主に標準語に基づいており、実際に日本人が使用する日本語がそれと一致しないことが多いからである。さらに、言葉の違いには地域的な差異だけでなく、話し手の年齢、性別、言語意識、所属する集団といった要因も影響を及ぼす（木部 2013）。三重県においては、地域差（例えば、北中部方言と南部方言）と話し手の年齢差（例えば、高齢者の三重弁と子供の三重弁）の二つが特に大きな要因とされている。本研究は、特に三重弁における年齢別の否定辞の使用実態を探ることで、三重県内の方言の多様性を理解し、日本語学習における応用的な視点を提供することを目的とする。

2. 三重弁の実態

2.1. 三重の方言

三重弁は近畿方言に属するとされ、北中部方言と南部方言の二つに分類されている。平山・丹羽（2000）によると、北部と南部の言葉が大きく異なるため、県全体に影響を与えるような中心的な大きい方言は存在しない。次に、神田（2018）は、三重の方言を、伊勢方言、伊賀方言、志摩方言、東紀州方言の四つに分類されると主張した。北中部で発話される方言は伊勢方言であり、四日市、鈴鹿、亀山、津、松阪、伊勢の名張市および度会郡・多気郡の広域が含まれている（神田 2018）。次に、三重県の北中部は愛知県と岐阜県に隣接しているため、岐阜・愛知方言との接触が多いと言われる。この接触の影響について、吉田ら（2016）の調査では、三重方言と隣接する方言の双方に影響を与え合う事象が確認されている。一方、三重の南部方言は志摩や熊野灘沿岸地域を含む（平山・丹羽 2000）。

2.2. 三重弁で使用される否定辞

言語学の形態論でいう否定形とは、否定助動詞、または否定辞がつく語幹を指す。三重弁では、標準語の「ナイ」だけではなく、様々な否定辞が使用される。平山・丹羽（2000）によると、三重弁で用いられる否定辞は A 類「ン・ヤン」と B 類「ヘン・セン」の 2 種類である。平山・丹羽（2000）によると、一段動詞の「見る」に A 類と B 類の否定辞が付く場合、下のようになる。

地域名	A 類	B 類
伊賀、伊勢大部分	ミヤン	ミヤヘン
伊勢の一部	ミヤン	ミヤセン
志摩	ミヤン	ミエシエン
南伊勢	ミヤン	ミヤヘン・ミヤシエン
北牟婁、南牟婁	ミン・ミヤン	ミヤヘン・ミヤシエン
南牟婁の山間部	ミン・ミヤン	ミヤヘン・ミヤセン

表 1 「見る」の否定形（平山・丹羽（2000）を元に作成）

三重弁における否定辞の使用は、他の研究でも挙げられた。例として、北中部の亀山、鈴鹿、朝日、桑名で否定辞としての「ヤン」の使用が確認されている（吉田ら 2014）。次に、田中（2018）によると、伊賀では、A 類「ン・ヤン」のと B 類「ヘン・セン」の両方が使用されている。また、田中の研究では、高・中年層と若年層の間で、否定辞の使用傾向の差が見られる。高齢の世代は「ヘン・ヤヘン」の使用傾向にある一方、若い世代は「ヘン」よりも「ン」の方を好む。「ン・ヤン」の使用法においては、世代を問わず、五段活用動詞には「ン」、一段動詞には「ヤン」であるが、変格動詞の場合、若い世代は「ン」の使用傾向が強まる。

3. 調査の概要

3.1. 調査対象とデータ収集方

本調査は、三重県出身の人々を対象とする。回答者は、年齢別に、20 歳以下、21～30 歳、31～40 歳、41～50 歳、51 歳以上のカテゴリーに分ける。また、本調査は、Google Forms のアンケートを通して、2024 年 6 月 14 日から 2024 年 6 月 24 日にわたって実地した。調査期間中に協力した 88 人から回答を集めることができた。

3.2. 調査協力者の情報

年齢		20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51 歳以上	合計
性別	男	7 人	4 人	5 人	10 人	13 人	39 人
	女	7 人	8 人	5 人	14 人	15 人	49 人
合計		14 人	12 人	10 人	24 人	28 人	88 人

表 2 調査協力者の年齢、および性別

表2に、88人の調査協力者の性別、年齢、および出身地をまとめる。表3は年齢と性別の情報を示す。表4では、調査協力者の出身地情報を提示する。

地域名	人数	地域名 (小分類)	人数
北勢地域	33人	四日市市	6人
		桑名市	9人
		鈴鹿市	16人
		亀山市	1人
		菰野町	1人
中勢地域	34人	津市	23人
		松阪市	7人
		多気郡	3人
		久居市	1人
伊賀地域	6人	伊賀市	5人
		名張市	1人
伊勢志摩地域	5人	伊勢市	4人
		志摩市	1人
東紀州地域	4人	熊野市	1人
		尾鷲市	2人
		紀北町	1人
無回答		6人	
合計		88人	

表3 調査協力者の出身地

表3から見ると、女性の回答者数が49名、男性の回答者数が39名となっている。また、回答者の年齢グループの中、最も多いグループが50歳以上である。最後に、回答者の中から、6名が具体的な出身市を記入しなかったため、表4では「無回答」とする。

3.2. 調査内容

調査では、まず、調査協力者が三重弁を使用する場面を聞いた。回答選択肢としては、「仕事の時」「家にいる時」「実家に帰る時」「友達と話している時」「その他」の5つを設定した。

そのうえで、三重弁における否定辞のバリエーションの実態を探るため、本稿では、各動詞の活用の種類ごとに辞書形の動詞例を提示し、協力者にそれを否定形へ変換させる方法を採用した。挙げら動詞は下の通りである。

- (1) 五段動詞 : a. 呼ぶ、b. 会う
- (2) 上一段動詞 : 落ちる
- (3) 下一段動詞 : 乗せる
- (4) サ行変格動詞 : 勉強する
- (5) カ行変格動詞 : 来る

調査結果に基づき、各動詞の活用種類ごとに否定辞のバリエーションを提示し、それぞれの否定形について各年齢グループの使用傾向に基づいた考察を行う。

4. 調査結果

4.1. 方言の使用場面

回答者の方言の使用場面は下の図の通りである。

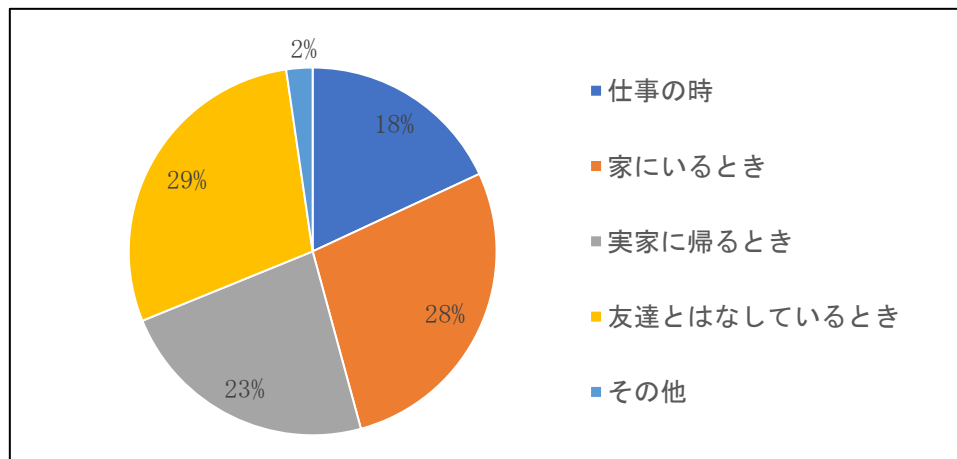


図1 調査協力者の方言意識の割合

図1から分かるように、回答者は日常生活のさまざまな場面で方言を用いてコミュニケーションを図っている。その中でも、方言が最も頻繁に用いられる場面は「友達と話しているとき」で全体の29%を占め、次いで「家にいるとき」の28%、「実家に帰るとき」が23%という結果が得られた。「仕事の時」は18%で比較的回答数が少なかった。

4.2. 動詞の否定形

本章では、3.2で挙げた各動詞の活用の種類による否定形（五段動詞の「呼ぶ、会う」、上一段動詞の「見る」、下一段動詞の「乗せる」、サ行変格動詞の「勉強する」、カ行変格動詞の「来る」）を調査結果に基づき、図で提示する。図の縦軸は回答数、横軸は回答者の年齢である。詳しい分析については、第5章の考察で述べる。

4.2.1. 五段動詞の否定形

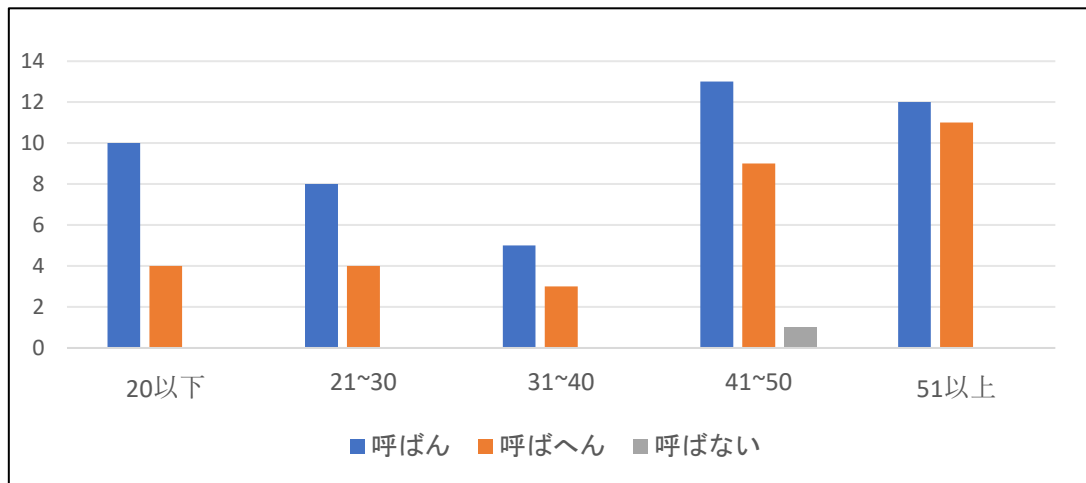


図2 「呼ぶ」の否定形

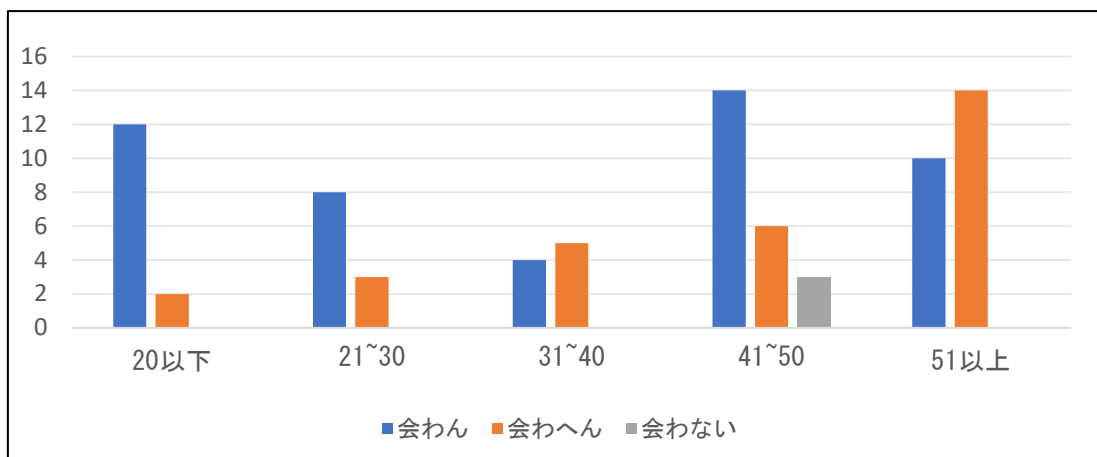


図3 「会う」の否定形

五段動詞に使用された否定形は「ン」と「ヘン」の2つの否定辞である。具体的には「呼ぶ」、「会う」の否定形は下の通りである。

否定形		語幹	否定辞・否定助動詞
ン類	ヨバン	ヨバ-	ン
	アワン	アワ-	ン
ヘン類	ヨバヘン	ヨバ-	ヘン
	アワヘン	アワ-	ヘン

表4 「呼ぶ」、「会う」の否定形

4.2.2. 上一段活用動詞の否定形

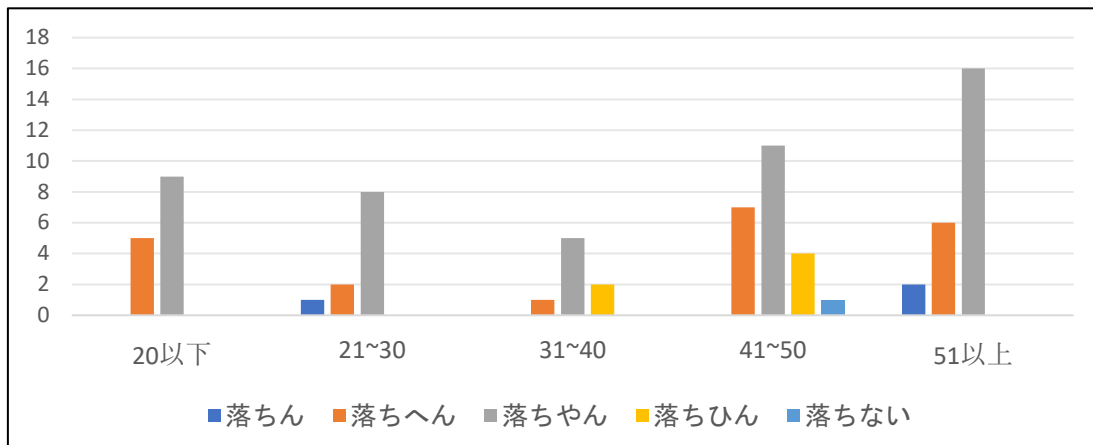


図4 「落ちる」の否定形

上一段動詞に使用された否定形は、五段動詞と比べると比較的多く、それらには、「ン」、「ヤン」、「ヘン」、「ヒン」の4つの否定辞が使われている。具体的には、「落ちる」の否定形は下の通りである。

否定形		語幹	否定辞・否定助動詞
ン類	オチン	オチ-	ン
ヤン類	オチヤン	オチ-	ヤン
ヘン類	オチヘン	オチ-	ヘン
ヒン類	オチヒン	オチ-	ヒン

表5 「落ちる」の否定形

4.2.3. 下一段活用動詞の否定形

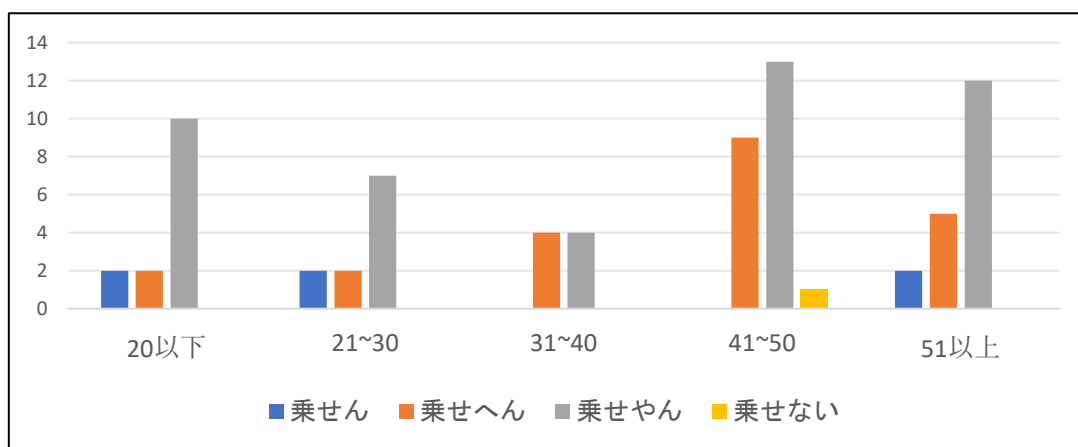


図5 「乗せる」の否定形

下二段動詞に使用された否定辞は、「ン」、「ヤン」、「ヘン」の3つの否定辞である。具体的には、「乗せる」の否定形は下の通りである。

否定形		語幹	否定辞・否定助動詞
ン類	ノセン	ノセ-	ン
ヤン類	ノセヤン	ノセ-	ヤン
ヘン類	ノセヘン	ノセ-	ヘン

表6 「乗せる」の否定形

4.2.4. サ行変格動詞の否定形

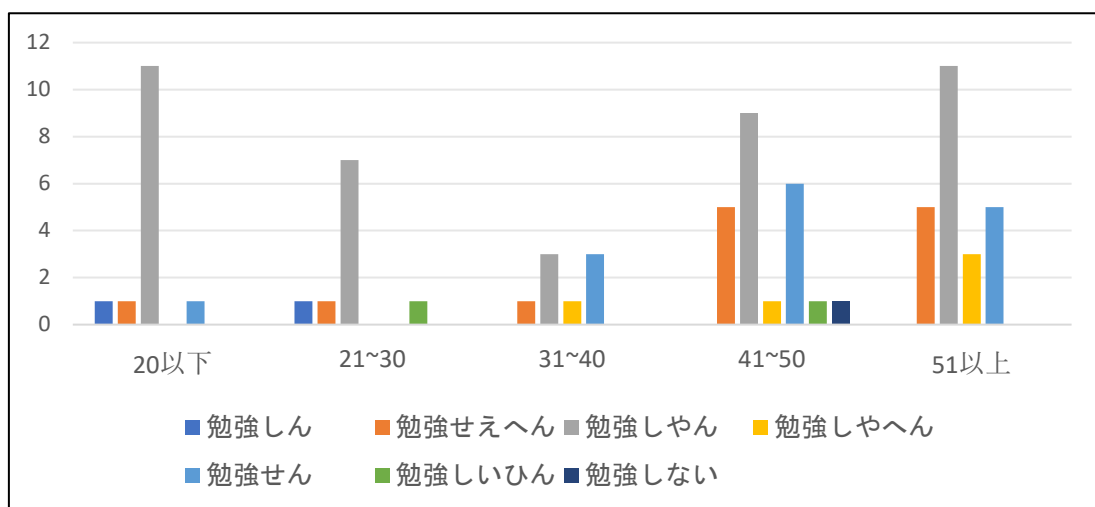


図6 「勉強する」の否定形

サ行変格動詞では、「ン」、「ヤン」、「ヘン」、「ヤヘン」、「ヒン」、「セン」の6つのバリエーションが用いられ、否定辞の種類が最も多い。具体的には、「勉強する」の否定形は下の通りである。

否定形		語幹	否定辞・否定助動詞
ン類	ベンキョウシン	ベンキョウシ-	ン
ヤン類	ベンキョウシヤン	ベンキョウシ-	ヤン
ヘン類	ベンキョウセエヘン	ベンキョウセエ-	ヘン
ヤヘン類	ベンキョウシヤヘン	ベンキョウシ-	ヤヘン
ヒン類	ベンキョウシイヒン	ベンキョウシイ-	ヒン
セン類	ベンキョウセン	ベンキョウ-	セン

表7 「勉強する」の否定形

4.2.5. カ行変格動詞の否定形

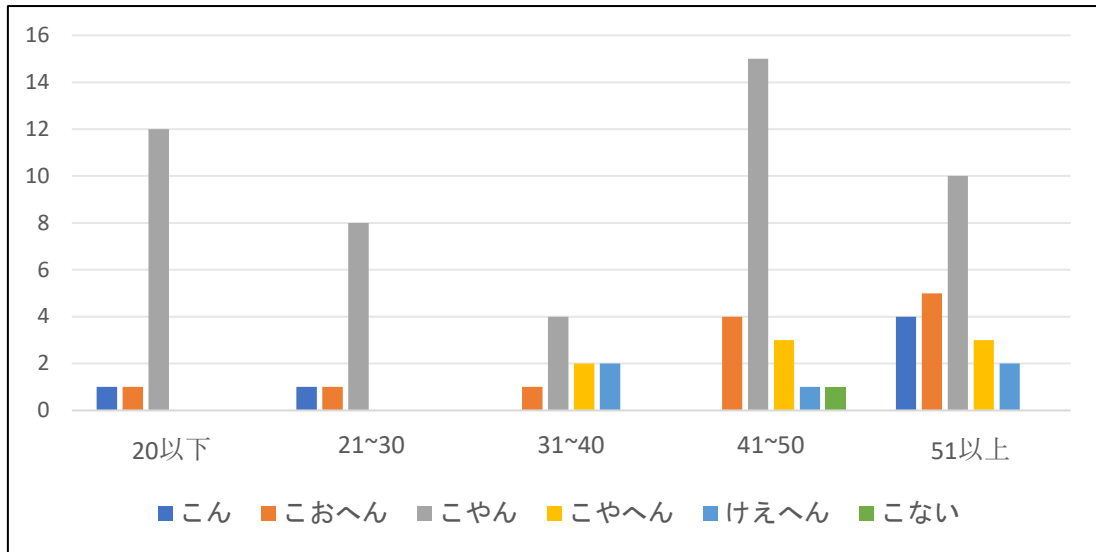


図7 「来る」の否定形

カ行変格動詞に使用された否定辞は、「ン」、「ヤン」、「ヘン」、「ヤヘン」の4つの否定辞である。具体的には、「来る」の否定形は下の通りである。

否定形		語幹	否定辞・否定助動詞
ン類	コン	コ-	ン
ヤン類	コヤン	コ-	ヤン
ヘン類	コオヘン	コオ-	ヘン
	ケエヘン	ケエ-	ヘン
ヤヘン類	コヤヘン	コ-	ヤヘン

表8 「来る」の否定形

5. 考察

まず、方言の使用場面については、自宅、実家にいる時、また友達と話しているときに特に方言が良く使用されることが分かった。したがって、親しい関係や環境において方言が使用される可能性が高いと言える。

さらに、動詞の否定形を作る調査結果から、三重弁には多様な否定辞のバリエーションが使用されていることが分かった。それらには、「ン」、「ヤン」、「ヘン」、「ヤヘン」、「ヒン」、「セン」、および標準語の「ナイ」を含む、計7つの否定辞が確認された。本章では、調査協力者の年齢グループごとに、各動詞の活用種類に応じた否定辞の使用傾向を考察する。具体的には、五段動詞、上一段動詞、下一段動詞、サ行変格動詞、カ行変格動詞の順に述べていく。

五段動詞では、「会わん」のような「ン」を用いる否定形が全世代で使用されているが、「ン」は各年齢グループにおいて最も多く使用される。一方、50代以上の世代では、「会う」の動詞に対して「ヘン」の否定辞も使用する傾向が見られる。

上一段動詞、下一段動詞では、「落ちやん」「乗せやん」のような「ヤン」を用いる否定形が全世代で最も多く使用されている。ただし、40代では、「落ちへん」「乗せへん」のような「ヘン」を用いる否定形も多い。また、本調査では、上一段動詞の「ヒン」の否定辞は31～40歳と41～50歳のグループにしか使用されない。ただし、「ヒン」の否定辞は、下一段動詞では一切使用されない。サ行変格動詞、カ行変格動詞においては否定辞の種類が多く使用されている。その中でも、「勉強しやん」「来やん」のような「ヤン」の否定形が前世代で最も多く使用されている。サ行変格動詞においては、「ヘン」と「ヒン」の否定辞がつく場合、音の変化により、未然形「シ」の部分が「セエ」や「シイ」に変わる。これに似て、カ行変格動詞では、「ヘン」の否定辞が付く場合、3つの形が用いられる。それらには「来おへん」、「来やへん」、「来えへん」のような否定形である。

6. おわりに

本研究では三重弁の否定辞のバリエーションや年齢別におけるその使用傾向を論じてきた。本研究から分かった結果は、下のようにまとめられる。

三重弁には、さまざまな否定辞が使用されており、本研究で確認された否定辞のバリエーションは「ン」、「ヤン」、「ヘン」、「ヤヘン」、「ヒン」、「セン」、および標準語の「ナイ」を含む、計7つの否定辞である。「ン」、「ヤン」、「ヘン」の3つの否定辞は、ほぼすべて動詞の動詞の活用種類に用いられるが、五段動詞の場合、「ン」と「ヘン」のみがつく。ただし、これらの使用には、世代による明らかな違いがある。若い世代では否定辞のバリエーションは少なく、中・高年層ではバリエーションが多い。これは、否定辞の種類が経時的に収束してきている可能性を示すものかもしれない。

本研究で明らかになった点は以上の通りであるが、調査対象の制約により、個人差、所属団体、地域差といった要因の詳細な検証には至らなかった。特に、地域差の影響は使用される方言に大きく関与していると考えられる。そのため、今後の研究ではこれらの要素を含めた包括的な検証が求められる。

参考文献

- 神田卓朗 (2018) 『三重弁やん』風媒社
- 木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ編 (2013) 『方言学入門』三省堂
- 三省堂編集所編 (2022) 『見やすい現代国語辞典第二版』三省堂
- 中田浩季 (2021) 「三重県伊賀方言における動詞否定辞のバリエーションの動態 —3 世代の談話資料に基づいて」『阪大社会言語学研究ノート』18, pp.1-25.
(<https://doi.org/10.18910/86403>)

- 平山輝男編・丹羽一彌編（2000）『三重県の言葉』明治書院
- 吉田健二他（2016）「三重・愛知県境地域における方言の接触と変容」『愛知淑徳大学国文学会』39, pp.218-250.(<https://aska-r.repo.nii.ac.jp/records/5991>)
- 吉田健二他（2014）「三重県北・中部方言の現状：予備調査報告」『愛知淑徳大学国文学会』38, pp.124-150. (<https://askar.repo.nii.ac.jp/record/5980/files/0005038201503124150.pdf>)

<要約>

The Mie dialect comprises the Central-North dialect and the South dialect of Mie Prefecture. This dialect is characterized by distinctive features that set it apart from other Japanese dialects, including unique negative markers such as *hen*, *n*, and *yan*. However, the use of these negative markers is significantly influenced by the speaker's age and regional differences. This study examines the usage of negative markers in the Mie dialect, focusing on age-related differences among speakers. Data were collected through an online questionnaire completed by participants born in Mie Prefecture. The results reveal seven different negative markers used in the dialect: *n*, *yan*, *hen*, *yahen*, *hin*, *sen*, and *nai* (the standard Japanese form). For *godan* verbs, the negative marker *n* is predominantly used across all age groups, while for other verb conjugation types, *yan* is the most commonly used form. Among middle-aged and older speakers, a wider variety of negative markers is observed, particularly in irregular conjugation verbs. In contrast, younger generations show a tendency toward reduced variation and convergence in the use of negative forms.

中国と日本の大学生の将来に向けてのキャリア設計の比較

キン・カエイ

1. はじめに

世界経済がますますグローバル化する中、大学生の将来に向けたキャリア設計は、国際社会で活躍する人材を育成する大学教育において重要な課題となっている。中国と日本は、歴史的な背景や文化、社会制度の違いから異なる価値観を持つ国々であり、それが大学生の将来への志向やキャリア選択に影響を与えている可能性がある。両国の大学生が直面する問題と将来設計に焦点を当てながら、さまざまな要因がキャリア形成にどのような役割を果たすか理解するのは重要だ。この論文では、中国と日本の大学生のキャリア設計における共通性と相違点を、学生の視点と大学教育の視点から明らかにし、異なる社会状況や教育制度が大学生のキャリア設計に与える影響を調べ、両国の若者たちが直面する将来の設計状況について明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究：学生のキャリア設計

2. 1. 中国人学生のキャリアプラン

陳捷 (2023) の調査によると、農村出身の大学生はより安定した仕事を求め、都市部出身の大学生はより名声と社会的地位を重視している。農村出身の大学生の多くは家計があまり豊かではないため、社会に出てから比較的安定した仕事に従事する傾向がある。都市の出身である大学生の見識と視野は比較的広く、名声と社会的地位の高い仕事を選ぶ傾向がある。

大学生は自分の専門に対する認識が深くないため、多くの卒業生が人気のある職種を求めすぎて自分の興味と能力を軽視し、最終的に就職難を招いたというのが中国の現状の一端である。また、多くの大学生が卒業後に直面している問題は、自分の専攻に合う仕事が見つからないことだと述べている。これは、新興業界や新興の職業の出現が就職市場の変化を招いたためかもしれないが、大学生の専門知識や技術の育成がタイムリーにフォローできず、就職先と大学生の専攻が一致しない現象を招いたのかもしれない (陳 2023)。このため、大学在学中にキャリアプランを作っても、予期せぬ変更で問題になることもある。

李 (2024) の研究は、キャリアプランの失敗に焦りを募らせた二人の学生のケースを報告しており、学校のキャリア教育の問題、学生自身の自己位置づけの不明瞭さ、家庭の状況の違いという、3つの原因を分析した。例えば、二つのケースの中の1人の学生は、1回大学院受験に失敗した後、自分が大学院受験を続けるべきか、それとも仕事を探すべきか分からなかった。これは、学生自分の学習能力と仕事能力の位置づけがはっきりしておらず、大学の3年目より前に系統的な自己計画をしたことがないことをさらに示している。

2. 2 日本人学生のキャリアプラン

日本の大学生の就職について、安達 (2005) は、多くの大学生が持つ適職信仰の意味を説明している。適職信仰は、そのうちきつと何かぴったりの仕事に巡り合うだろう、天職に出合えるはずだと、

将来に夢や希望を抱きながら適職との出会いを待ち続ける傾向である。しかし、こうした具体性のない適職との出会いを求めすぎて、理想と現実をすり合わせることができず、目の前の求人を見落とししてしまう学生も多い。そのような学生は、第一、第二志望の職への就職活動に失敗すると、就職活動をやめてしまうことがある。また、自分の希望しない職に就いた後も適職信仰を強く持ち続けると、自分をもっと輝ける仕事に出会えるはずだと辞めてしまう早期離職につながることもある。しかし、会社の就職支援の担当者が学生たちの浅はかさを嘆く一方で、安達の研究では、学生たちのキャリアに対する態度は、決して他人事や運命に任せる楽観的な態度ではなく、むしろ理想の職業に就けないという予想外の結果から、未来への不安や懸念を抱く学生たちの心情がうかがえると報告されている。

喜田・高木（2002）は、学生たちは自分なりに将来の進路を真剣に考えたいが、その糸口がつかめないため、就職への意識が現実の準備行動につながりにくいと指摘する。職業選択は、これまでの進学先決定とは異なり、多くの選択肢の中で、自分の適性や価値基準に基づいて独自に進めなければならない。これは、多くの学生にとって初めての経験である。職業選択、つまりキャリアプランに関心を持ち、焦りを感じていたが、どのように努力すればいいのか分からなかったため、結局実際の行動を取ることができなかったという学生も多い。

3. 先行研究：大学のキャリア教育

3. 1. 中国のキャリア教育

前章では学生たちの視点から、彼、彼女らのキャリアプランについて概観したが、本章では、主に大学による学生たちのためのキャリア教育について述べる。21世紀初頭、中国経済が軌道に乗り始めた頃は、就職口も豊富だった。しかし、1999年に中国政府による大学の量的拡大への政策転換が実施された後、大学の数が増え、就職市場はほぼ飽和状態になった。例えば2024年4月時点での中国の大学生の内定率は5割未満である（西村2024）。その結果、学部卒という学歴は不十分だと考え、より良い就職先を求めて大学院や博士課程を受験する人が増えた（韓2018）。2016年の中国の大学院生の数は66～67万人だったが、2023年には130万人を超えている（Shin2024）。そのため多くの学生は修士の取得者が多くなり、一層就職が厳しくなっている。政府はこの問題に気づき始め、キャリア教育を提供し始めたが、効果はほとんどないと思われる（李2010）。こうした状況を受けて、2010年以降、中国教育部は、大学卒業者の起業を促進するなどの動きを見せている（労働政策研究・研修機構2017）。

趙（2010）はキャリア教育の実践面の調査を北京の8大学に対して実施した。その結果、①キャリア教育に対する大学生側の需要と大学側の供給にミスマッチがある、②教育内容の多様性に欠ける、③専門の指導教員と経費が不足しているという3点を主な問題点として挙げている。また、張（2015）は、中国における大学のキャリア教育について調査を実施し、以下のような問題が明らかになった。第一に、大学生の多くがキャリア教育に不満を持っており、その質は低いと考えている。第二に、キャリア教育の授業の進め方に問題がある。第三は、キャリア教育と関連した活動の学生への周知の問題である。大学のキャリア教育に関わる活動が周知されていないため、学生の参加率が低い

ということだ。調査の結果、「専門に関係なく同じ教科書が使われ、講義の形態も知識や理論的な指導にとどまっている。授業は本来実践的であるべきだが、知識と理論指導しかできないことが問題だ (p. 65~69, 筆者訳)」と指摘している。

さらに、九門 (2020) が実施した中国人大学生のキャリア意識と中国の大学に求められるキャリア教育に関するアンケート調査の中で、「自分の価値観をベースにした職業選択を考えるキャリア教育の講座に参加してみたいか」という設問に対しては、「はい (86.6%)」、「いいえ (13.4%)」と9割近い学生がキャリア教育への参加意欲を見せている。このことから、仕事を探す際にも自分の価値観を重視したいという現在の若者の姿勢が表れており、大学での教育と大学生の潜在的に大きなギャップがあることがわかる。

3. 2. 日本のキャリア教育

日本の場合は、2021年、2022年、2023年3月の大学(学部)卒業者の就職率は、それぞれ96.0%、95.8%、97.3%となっており、高い就職率を保っている(厚生労働省 2021, 2022, 2023)。しかし、厚生労働省の調べによると、大卒正社員の入社後3年以内の離職率は1995年以降30%である。つまり、卒業時に就職先を確保した者の3割が就職後の適応に問題を抱え、3年以内に職場を去るという早期離職も実に深刻と言える。キャリア選択にまつわる諸問題は、個人の経済的・心理的自立の機会を損なうだけでなく、貴重な人材育成に歯止めをかけ、社会にとって大きな損失を生み出している(安達 2005)。

近年、多くの大学におけるキャリア教育は、新たな教育改革としての重要性が高まりを見せており、一部の私立大学では国際キャリア学科が新設され、多くの大学にキャリアデザインプログラムが立ち上げられている。キャリア教育に関する「社会人基礎力」育成プログラムは「社会人基礎力」を伸ばすだけでなく、「同時に基礎学力や専門的知識の習得、その習得に向けた学習意欲を増進させることができる仕組みが必要で、「知識教育」と「実践教育」の相乗効果によるものである」と指摘されている(寿山 2009, p.7)。

授業外の取り組みとして、多くの大学では、1年次から進路ガイダンスなどを実施して、学生に進路について考えさせようとしている。しかし、単発の、しかも任意参加のガイダンスには限界も多い。先のことを考えている学生は参加するが、そういう意識の乏しい学生は参加せず、学生の2極分化が生じると言う指摘もある。就職担当の職員は一生懸命取り組むが、教員は学生の就職に無関心と言う現実も見られる。ガイダンスは就職支援事業と言う位置づけに過ぎないからである。つまり、日本においても、現在の大学生はキャリアの選択や計画についてあまり明確になっておらず、様々な問題がある(高橋 2012)。

経済産業省(2010)においても、企業と学生との間での能力に関する認識のギャップについて述べられており、企業側は学生に対してコミュニケーション力等の内面的な基本能力の不足を感じているのに対し、学生はそれよりも技術スキルが自らに不足していると感じていることが指摘された。すなわち、大学でのキャリア形成過程において、大学側が重視しているものと学生側が重視しているものが一致していなかった、あるいは大学が適切に方向付けることができていなかった可能性がある(高橋 2012)。

以上のことから、中国と日本でのこれらの現状を調べるため、二つの調査を実施した。まず、三重大学と延辺大学の学生に対して、将来に向けてのキャリア設計についてのアンケートを実施し、学生のキャリア設計に対する意識と、キャリア教育に対する意識を調査することにした（調査A）。また、アンケート調査とは別に、大学のキャリア教育の支援体制についても、両大学の担当機関にメールでの聞き取り調査を実施した（調査B）。

4. 調査A：学生を対象としたアンケート調査

4. 1. 調査方法

この調査は延辺大学3年生30名と三重大学3年生30名を対象に行われた。アンケートには、より詳細な情報を得るために、次のような多肢選択式と自由形式の質問が含まれた。下記がアンケート内容である。質問1～5は、学生自身のキャリア設計に対する意識を調査するもので、質問6～8は大学のキャリア教育に対する学生の意見を調査するものである。1月から3月にウィーチャットによる調査を実施し、順次アンケート結果についてまとめる。

1. あなたは将来の仕事に悩んでいますか。（将来どんな仕事に就いたらよいかわからず悩んでいますか。）
A はい B いいえ C 困ったことはありますが、今はありません。
2. 将来のキャリアプランについて明確な考えを持っていますか。（将来どんな仕事に就くか決めていますか。）
A はい B いいえ C 大体のプランは立てています。
3. 2の質問に「いいえ」の人へ：どうして、将来のキャリアプランを立てられませんか。
A 自分に何ができるかわからないから。 B やりたいことがないから。
C 家庭の事情で考える時間がないから。 D まだ将来のことを考えなくてもいい歳だから。 E その他
4. 今考えているキャリアプランは、将来成功すると思っていますか。
A はい B いいえ C もう少し検討が必要だ。
5. 将来のキャリアプランを考えると、どんなことがもっと必要だと思いますか。
A 専攻 B 大学院に進学する C 海外留学 D 資格を取る E 人脈 F その他
6. 在学中、キャリアプランに関連するイベントやインターンシップに参加したことがありますか。
A はい B いいえ
7. 今の大学教育はあなたのキャリアプランに役立つと思いますか。
A はい B いいえ C はい、しかし影響は大きくありません
8. 将来のキャリアプランに役立つために、大学ではどのような教育指導をしてほしいですか。2つ選んでください。
A キャリアプラン作成の講義 B インターンシップの機会を増やす C 先輩が経験を分かち合う
D その他

4. 2. 結果：学生自身のキャリア設計に対する意識

この章では、学生自身のキャリア設計について調査するための質問1～8の結果を報告する。まず、「あなたは将来の仕事に悩んでいますか。」という質問の結果は、以下の表の通りである。

回答選択肢	中国	日本
はい	68.75%	40%
いいえ	25%	30%
困ったことはありますが、今はありません	6.25%	30%

表1 質問「あなたは将来の仕事に悩んでいますか」の結果

結果を見ると、日本人学生よりも、中国人学生の方が、将来の仕事に悩んでいる学生は多いようである。

次に、「将来のキャリアプランについて明確な考えを持っていますか。」という質問の結果は、以下の通りである。

回答選択肢	中国	日本
はい	25%	25%
いいえ	25%	30%
大体のプランは立てています	50%	45%

表2 質問「将来のキャリアプランについて明確な考えを持っていますか」の結果

結果を見ると、明確な将来のキャリアプランがあるかどうかについては、両国の大学生の結果は似ている。プランがある割合、ない割合はほぼ同じである。そして、両国の学生の最も多い回答は、「大体のプランは立てている」である。

一方、将来のキャリアプランがないと回答した学生に聞いた、「どうして、将来のキャリアプランを立てられませんか」という質問の結果は以下の通りである。

回答選択肢	中国	日本
自分に何ができるかわからないから	62.5%	66.67%
やりたいことがないから	62.5%	66.67%
まだ将来のことを考えなくてもいい歳だから	25%	16.67%
家庭の事情で考える時間がないから	12.5%	0%
その他	0%	0%

表4 質問「(将来のキャリアプランがないと回答した学生の中で) どうして、将来のキャリアプランを立てられませんか」の結果

得られた結果を見ると、中国と日本の学生は非常に類似しており、「自分に何ができるかわからないから」と「やりたいことがないから」という二つの回答が60%以上を占めている。

「今考えているキャリアプランは成功すると思っていますか」の質問の結果は、下の表に示されるとおりである。

回答選択肢	中国	日本
はい	29.17%	50%
いいえ	8.33%	0%
もう少し検討が必要だ	62.5%	50%

表6 質問「今考えているキャリアプランは成功すると思っていますか」の結果

この質問の結果、中国の大学生の約60%は、もう少し検討しなければならないと感じている。成功しないと感じているのは8%で、成功すると思うのは30%未満だ。日本の大学生の半分は成功すると思っていて、半分はもう少し検討が必要と思っ、成功しないと思う人はいない。

「将来のキャリアプランを考えると、どんなことがもっと必要だと思いますか」という質問の結果は以下の表の通りである。

回答選択肢	中国	日本
大学院に進学する	62.5%	25%
専攻	59.38%	30%
資格を取る	37.5%	45%
海外留学	12.5%	25%
人脈	56.25%	20%
その他	0%	10%

表7 質問「将来のキャリアプランを考えると、どんなことがもっと必要だと思いますか」の結果

中国の大学生の場合、最も多く選択されたのは「より高い学歴/学位を取得すること」で、その次に選ばれたのは「大学の専攻」、そして「人脈」であり、この三つの回答が特に多かった。日本の大学生の場合、最も多く選択されたのは「資格を取る」で、この回答が他の回答に比べて特に多かった。

4. 3. 結果：大学のキャリア教育に対する学生の意見

ここから、大学のキャリア教育に対する学生の意見を調査した質問9～11の結果を報告する。まず、「在学中、キャリアプランに関連するイベントやインターンシップに参加したことがありますか。」という質問の結果を下表に示す。この質問で、中国の参加した学生と参加しなかった学生の数は半分ずつだった。日本の大学生は参加した学生が70%に達した。

回答選択肢	中国	日本
はい	53.13%	70%
いいえ	46.88%	30%

表8 質問「在学中、キャリアプランに関連するイベントやインターンシップに参加したことがありますか」の結果

「今の大学教育はあなたのキャリアに役立つと思いますか。」という質問については、約40%の中国の学生、そして60%の日本の学生が「はい（役に立つ）」と回答した。また、両国ともに約40%の学生が考えているのは、「あるが、影響は少ない」ということだ。そのうち約15%の中国人学生が「いいえ（役に立たない）」と考えている。日本人学生は「いいえ（役に立たない）」と考えている学生はいなかった。

回答選択肢	中国	日本
はい	40.63%	60%
いいえ	15.63%	0%
はい、しかし影響は大きくありません	43.75%	40%

表9 質問「今の大学教育はあなたのキャリアに役立つと思いますか」の結果

「将来のキャリアプランに役立つために、大学ではどのような教育指導をしてほしいですか」という問題について、両国の学生は異なる結果を出した。

回答選択肢	中国	日本
先輩が経験を分かち合う	75%	55%
キャリアプラン作成の講義	71.88%	35%
インターンシップの機会を増やす	59.38%	30%
その他	6.25%	15%

表10 質問「将来のキャリアプランに役立つために、大学ではどのような教育指導をしてほしいですか」の結果

中国人大学生は「インターンシップの機会を増やす」と「キャリアプラン作成のための講義」の2つの選択肢のうち70%に達した。日本人大学生の場合、「先輩が経験を分かち合う」が最も多く選ばれ、55%だった。

5. 調査B: 大学のキャリア支援センターを対象とした聞き取り調査

アンケート調査とは別に、もう一つの調査として、中国の延辺大学と日本の三重大学のキャリア支援担当機関にメールを送り、聞き取り調査を実施した。この調査では、それぞれの大学のキャリア支援担当機関が、学生たちにどのような支援をしているかを調べた。ここでメールに書いた質問は、下の6つである。

1. 就職支援のためのセミナーはありますか。
A ある B ない
2. 就職支援のための相談サービスを提供していますか。
A ある B ない

3. 就職に関する相談をする学生の数はどのくらいですか。
1ヶ月に平均()名
4. 相談に来る学生の一番多い質問は何ですか。
A 面接への回答方法 B 将来のキャリア設計の方法 C 希望する企業に就職したOBやOGの紹介 D インターンシップの紹介 E その他_____
5. 貴学のキャリア教育プログラムの具体的な内容について教えていただけますか。
6. 学生のキャリア形成のサポートの方法や効果について、具体的な事例があれば教えていただけますか。

まず、延辺大学からは返信が来なかったため、これらの質問事項に関しては筆者が延辺大学のホームページ等を閲覧して調べた。また、三重大学からの返信は非常に簡素であったり、質問の回答はこちらを見てくださいとURLが添付されたものであったりした。両大学の回答を並べて示すことは不可能なので、筆者が調べた結果をまとめて下に記すが、この調査でも少し中国と日本の大学の違いが現れた。

まず延辺大学では全学生に、三年生の時にキャリア支援の授業を手配している。しかし、延辺大学の学生に聞くと、多くの学生はこの授業では、あまりまじめではなく、授業を受けるよりも他のことをすることが多いそうである。次に、中国は大学内で個人用メールをあまり使用しておらず、就職に関するイベントがあれば、学校の公式サイトを通じて配信しているため、効率的な問題を招いているようである。しかし、就職情報サイトという学生の就職情報を把握するための専門サイトがあり、すべての学生の就職情報がこのページ上に掲載されている。また、近年では起業指導やイノベーション能力の育成も重視され、学生の自主起業を奨励している。

三重大学の場合、キャリア支援センターがある。キャリア支援センターからの回答では、学生の就職支援のためのセミナー（企業説明会など）や就職相談サービスがあり、また1ヶ月平均220人の学生が相談しに来ている。その中で最も多くの学生から聞かれるのはエントリーシート作成の相談である。三重大学では、キャリア支援センターのサイトがある。このサイトを閲覧したところ、三重大学は外国人留学生や障害学生に対しても就職情報を持っているようである。就職に関するイベントがある場合は、学生個人のメールにも一斉送信されている。また、三重大学では特にインターンシップに力を入れているということであった。

6. 考察

中国の延辺大学の学生と日本の三重大学の学生を対象としたアンケート（調査A）の結果を通じて、両国の大学生のキャリアプランに関する意識は、多くの点で似ている。例えば、将来のプランを明確に持っていない学生については、中国の学生も日本の学生も、「自分に何ができるかわからないから」と「やりたいことがないから」が将来のプランが決められない理由である。この結果は、具体性のない適職を求める学生が多いという安達（2005）の調査結果と一致する。また、大学のキャリア

教育が自分の就職活動に与える影響は少ないという学生が40%程度を占めていることも、中国人学生と日本人学生は共通している。

しかし、異なるデータ結果が出ている質問もある。例えば、自分の将来の仕事について悩んでいる学生は、中国人の方が多い。そしてこれらの中国人学生が、将来のキャリアプランに必要だと思っていることは「より高い学歴／学位を取得すること」と「人脈」である。将来の仕事について悩んでいる中国人が多いことと、「より高い学歴／学位を取得すること」という回答者数が多い理由は、市場競争が激しい事が考えられる。第3章に述べたとおり、経済発展と教育普及化に伴い、中国の雇用市場競争は日増しに激しくなっていて、多くのポストは高学歴に対する要求が高い。高学歴は学生の学習能力、総合的な素質、専門技能を証明することができ、それによってより競争力が得られると多くの学生は考えている可能性がある。また、「人脈」が必要という回答が多い理由は、中国では、人間関係ネットワークは社会交流と職業発展の重要な資源と見なされているからだと推察される（古田2004）。一般的に、良好な人脈は、良い情報、資源、機会を得ることができ、競争の激しい就職市場の中で頭角を現すのに役立つ上、さらに実際多くの採用機会と職業発展の機会は公開採用や広告発表ではなく、人間関係や内部推薦を通じて獲得される。そのため、潜在的な仕事の機会を迅速に知ることができる強力な人脈ネットワークが必要だと学生は考えているのである。

一方、日本人大学生が将来のキャリアプランに必要だと思っていることとして、回答数が最も多い回答は「資格を取る」であった。この回答が「より高い学歴／学位を取得すること」を上回ったのは、少々意外であった。なぜなら、日本の就職市場では伝統的に、資格などの専門的な能力は重視されていなかったからである（中橋・ショーン 2018）。長い間、日本の企業では、高学歴の学生を採用し、入社後にその実務能力を育成していくというのが慣例であった。一つの可能性としては、本調査の日本人学生のこの回答は、日本の企業文化の変化を反映しているかもしれない。1990年代の不況以降、日本企業は能力主義・成果主義を人事制度に導入し始めた（鬼丸 2015）。それまでの長い伝統を変えるのは難しいと思われたが、本調査の結果は、近年、日本人学生の間にも専門的能力の必要性が認識されてきたことの表れであるという可能性がある。

また、学生が大学に求める指導として、中国の学生の回答が多かったのは「インターンシップの機会の増加」と「キャリアプラン作成の講義」であった（両方70%以上）。一方、日本の学生は、この二つの回答を選んだ学生は少ない（30～35%）。三重大学では、キャリア支援機関を対象とした調査Bの結果にもある通り、キャリア支援センターがインターンシップに力を入れているので、その機会は比較的多いことが推察される。延辺大学の学生にとっては、インターンシップの機会が少ないことが推察される。また、「キャリアプランの作成の講義」を求める延辺大学の学生が多かったのは、調査Bの結果と矛盾する。延辺大学では3年生の時に全学生にキャリア支援の授業が提供されているはずである。それでもキャリアプランの講義を求める延辺大学生が多いということは、延辺大学生が、今のキャリア支援の授業の内容に満足していないということが示唆される。

また、中日の大学のキャリア支援機関を対象とした調査Bの結果からわかるのは、両国のキャリア支援センターはいずれも職業相談サービスを提供し、定期的に企業の採用会を開催し、学生が就職市場と企業のニーズを理解するのを支援していることである。一方、この調査Bの結果にみられる両大

学の違いとしては、三重大学では学生の個人メールに情報が配布されるということが注目される。中国の大学では個人メールを使うことが少ないので、中国人学生たちは自分から大学のキャリア関連サイトを見なければいけない。一方、延辺大学では、近年では起業指導やイノベーション能力の育成が行われており、これは日本の大学よりも優れている点だと考えられる。

7. おわりに

本稿では、中国と日本の大学生の将来のキャリアデザインに関して、学生自身の意識や大学のキャリア教育の現状とその影響などを調査し、比較した。調査によると、両国の大学生は似ている部分と異なる部分を呈している。中国人大学生は、どんどん激しくなる市場競争の中、就職に対して悩んでいる学生が多いが、彼、彼女らは学歴と人脈によってこの状況を切り抜けようとしている。一方、日本人大学生は、資格を取ったりインターンシップに参加したりすることで、就職を勝ち取ろうとしている。しかし、フリーランスなどを含む様々な働き方が増えている中で、中国の大学では起業やイノベーションについての指導も行っている。両国の調査結果を概観すると、中国の就職状況は非常に厳しく、学生も大学もこれに対応するために試行錯誤している一方、日本の就職状況は比較的安定しているようである。

以上、社会状況や背景の違いが中国と日本の大学生のキャリア設計や大学のキャリア教育に違った影響を与えていることがわかる。就職状況は時代の流れとともに変わるので、両国がお互いの経験から学び合い、より良い未来の構築に取り組んでいく必要があると考える。

参考文献

- 安達 智子 (2005) 「大学生のキャリア選択—その心理的背景と支援」 『日本労働研究雑誌特集・若年無業—NEET』 533, pp. 27 - 37.
- 鬼丸朋子 (2015) 「日本企業に成果主義賃金が与えた影響に関する一考察」 『社会政策』 7, pp. 93-105.
- 川瀬 隆千 (2006) 「本学キャリア教育プログラムが学生の自己効力感に及ぼす効果」 『宮崎公立大学人文学部紀要』 13 (1) , pp. 57 - 74.
- 韓冀娜 (2018) 「中国修士課程在学者の進路選択に関する一考察—天津市にある3大学のケーススタディ—」 『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』 26, pp. 71-80.
- 喜田裕子・高木茂子 (2002) 「大学生の進路 (キャリア) をめぐる心理教育的支援に関する基礎的研究」 『人文社会学部紀要』 2, 39-48.
- 九門大士 (2019) 「中国人大学生のキャリア意識と中国の大学に求められるキャリア教育」 『アジア研究所紀要』 46, pp. 53 - 77.
- 経済産業省 (2010) 「大学生の「社会人観」の把握と「社会人基礎力」の認知度向上実証に関する調査」 <<http://www3.keizaireport.com/report.php/RID/133073/>>

- 厚生労働省 (2021) 「報道発表資料 2021年5月：令和3年3月大学等卒業者の就職状況を公表します」〈https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/houdou_list_202105.html〉
- 厚生労働省 (2022) 「報道発表資料 2022年5月：令和4年3月大学等卒業者の就職状況 (4月1日現在) を公表します」〈https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/houdou_list_202205.html〉
- 厚生労働省 (2023) 「報道発表資料 2023年5月：令和5年3月大学等卒業者の就職状況 (4月1日現在) を公表します」〈https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/houdou_list_202305.html〉
- Shin Yoonjae (2024) 「毎日経済」 〈<https://www.mk.co.kr/jp/world/10960529>〉
- 寿山泰二 (2008) 「大学におけるキャリア教育の課題—社会人基礎力の導入の観点から—」『京都創成大学紀要』8 (1), pp. 27-45
- 寿山泰二 (2009) 「大学におけるキャリア教育への提言」『The Kyoto Sosei University Review』9 (2), pp. 1-10.
- 高橋 功 (2012) 「日本人学生における入学時のキャリア形成に対する意識とその後の変化の実態調査」『山陽論叢』19, pp. 28-38.
- 張任 (2015) 「中国における大学のキャリア教育の展開に関する考察—素質教育の補助と延長という視点から」『東アジア研究』(13), pp. 45-73
- 中橋真穂・ショーン・アンダーソン (2018) 「日本における外国人留学生の就職状況に関する一考察 (英語コースに所属する外国人留学生のライフストーリー分析から)」『グローバル人材育成教育研究』5, pp. 13-23.
- 西村友作 (2024) 「中国の大卒内定率5割切る IT・不動産業界、採用絞る」『日本経済新聞 (2024.6.22)』 〈<https://www.nikkei.com/article/DGXZQGM213330R20C24A5000000/>〉
- 古田秋太郎 (2005) 「在中日系企業における中国人総経理に関するアンケート調査」『中京経済研究』14, pp. 31-41.
- 李敏 (2010) 「中国の高等教育大衆化と大卒者の就職活動—1999年と2004年における上海市の大卒者就職調査の比較—」『広島大学高等教育研究開発センター大学論集』42, pp. 89-105.
- 労働政策研究・研修機構 (2017) 「「90後」世代の就業意識」〈https://www.jil.go.jp/foreign/ji-hou/2017/03/china_01.html〉

(中国語資料)

- 趙峰 (2010) 『高校就業指導工作体系研究』中国市場出版社
- 陳捷 (2023) 「大学生职业规划现状及其影响因素」黑龙江科学 第14卷 第17期
- 陳思宇 (2023) 「大众化视域下的大学生就业心理问题及发展」第九届创新教育学术会议 人才培养
- 李嬌冉 (2024) 「新时代背景下当代大学生职业生涯探索迷茫期的策略研究」产学研经济 《经济师》2024年第03期

<要約>

本论文，基于针对中国和日本的两所大学的大学生进行职业规划的相关调查，进行两国大学生职业规划的不同的比较。随着世界经济日益全球化，大学生未来的职业规划已成为大学教育的一个重要问题，旨在培养能够在国际社会中发挥积极作用的人才。中日两国由于历史背景、文化、社会制度的差异，是价值观不同的国家，这可能会对大学生的未来愿望和职业选择产生影响。了解各种因素如何在职业发展中发挥作用非常重要，重点关注两国大学生面临的问题及其对未来的计划。

中国就业困难的现状的一部分原因是大学生对自己的专业没有深入的了解，很多毕业生追求热门工作而忽视了自己的兴趣和能力，最终导致就业困难。由于地域出身的不同，也会导致不同程度的就业困难。关于日本大学生的就业相对来说要轻松一些，但也存在一些问题，比如不少学生过于急于找到合适的工作，缺乏针对性，无法兼顾理想与现实，最终忽视了眼前的工作机会。如果这些学生在第一或第二选择的求职中失败，他们可能会放弃求职。

本论文基于这些现状的基础，针对大学生和大学就业指导中心进行了问卷调查，包括他们对于自我的认知、对于当今大学职业教育的现状的看法及其影响等等。调查结果表明，两国大学生由于不同的社会背景和文化影响，存在着相同点和不同点。

许多中国大学生在日益激烈的市场竞争中对就业感到担忧，他们更加看重学历背景和人脉关系。日本大学生则试图通过获得资格和参加实习来赢得就业。然而，随着全球化和技术的发展，包括自由职业在内的各种工作方式正在增加。针对这一点，中国的大学也在创业方面提供指导。纵观两国的调查结果，中国的就业形势极其困难，学生和大学都在尝试着应对，而日本的就业形势则显得相对稳定。

由此可见，社会条件和背景的差异对中日大学生的职业规划和就业指导教育有着不同的影响。就业形势随着时代的变化而变化，两国有必要互相学习经验，共同建设更加美好的未来。

三重大学国際交流センター日本語日本文化研修生プログラム

2023年度日本語日本文化研修生 研究成果最終発表会

7月19日16時半～18時半 総合研究棟Ⅱ2階視聴覚室

1. クロアチアの日本語授業における母語使用の可能性
Petric Marija (クロアチア)
2. 日本語の慣用句に表現される文化的特徴の研究
Lam Hoai Nhat (ベトナム)
3. 日本およびタイにおける性と生殖に関する健康と権利の
比較—妊娠中絶を中心に—
Charoensak Pimpitcha (タイ)
4. 三重弁における年齢差の実態調査:否定形に焦点を
当てて
Saefulloh Ilham Akbar (インドネシア)
5. 中国と日本の大学生の将来に向けてのキャリア設計
の比較
Jin Jiaying (中国)

問い合わせ先:国際交流センター 松岡chizkom@cie.mie-u.ac.jp

2024年8月8日(木) 修了式にて



2024年7月28日(日)伊賀にて



2024年8月8日(木)修了式にて





三重大学 (三重県)

将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指し、国際的に活躍する人を育てるためのコースです。

■大学紹介

①大学の特色及び概要

◆三重大学は総合大学で、人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部の5学部があります。また、大学院は地域イノベーション学研究科を加えた6研究科があり、キャンパスは津市にあります。自然環境に恵まれ、キャンパスのすぐ東側では海岸に波が打ち寄せ、北西には鈴鹿の山が連なります。

◆学生数・教員数

学部学生数：5,907名

大学院生数：1,189名

教員数：751名

外国人留学生数：203名 (34カ国)

<2022年5月1日現在>

◆環境先進大学

本学は国際規格である ISO 14001の認証を受けて様々な環境マネジメントシステムを構築しています。

②国際交流の実績

◆三重大学は、外国の113大学・機関と、大学間または学部間の学術交流協定を結んでいます。これらの大学とは、教員・学生の交流、学術情報の交換などを行っています。

<2022年4月1日現在>

③過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

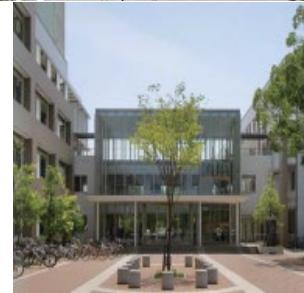
	留学生	日研生
2022年度	203名	4名
2021年度	174名	5名
2020年度	204名	4名



三重大学上浜キャンパス



伊賀上野城



三重大学国際交流センター



伊勢神宮 内宮
鈴鹿サーキット

④地域の特徴

◆津市は、三重県の県庁所在地です。人口は約27万人、温暖な気候で暮らしやすいところです。交通も便利で、大阪へのアクセスは約1時間半、京都へは約2時間、東京へも約3時間です。

◆三重県は、歴史や文学・国学の豊かなところです。すでに8世紀には『万葉集』の詩歌にうたわれ、多くの小説の舞台となりました。俳句を詠んだ松尾芭蕉は現在の三重県の地に生まれ、三島由紀夫が小説『潮騒』に描いた神島も三重県にあります。

◆県内には多くの史跡や名勝があり、観光客もたくさん訪れます。伊勢神宮を中心とした歴史的建造物、古い宿場町や歴史街道も残っています。また、伊賀は忍者の里として有名で、熊野古道は2004年7月に世界遺産に登録されました。

◆県内にある鈴鹿サーキットは、「日本のモータースポーツの聖地」と言われてきました。F1日本グランプリが開かれることにより、世界各国から多くのファンが集まります。

◆三重大学国際交流センターは、三重大学における国際交流の要として、本学の国際的な教育研究の充実、及び地域の国際化に寄与することを目的とし、様々な国際的な活動の企画・推進を行っています。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

◆将来、日本や日本語に関係する研究や仕事を目指している人のためのコースです。

◆地域住民及び三重大学生、在日外国人や留学生との相互交流を通して、日本文化や異文化への理解を深めることができます。

◆それぞれの指導教員の下、各自が設定したテーマや、基礎的な研究方法やレポートの書き方について学ぶことができます。

③ 受入定員

5名（大使館推薦1名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

次の(1)と(2)の両方の条件を満たすこと。

(1) 本国の4年制大学において、日本語・日本語教育・日本文化関係を専攻している人（2年生以上）。

(2) 日本語能力試験N2以上か、それに相当する日本語力がある人（語彙を約4,000～6,000語、漢字を約600～800字以上、既に習得している人）。

⑤ 達成目標

日本語・日本文化研究を通して、母国と日本のかけはしとなれる学生の育成。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬～2024年8月下旬
（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月～2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

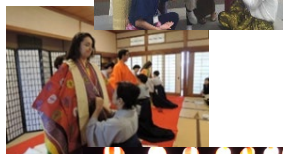
◆秋学期（後期）

9月下旬 渡日／オリエンテーション
日本語レベル判定試験
10月 授業開始
11月 大学祭
12月 国際交流デイズ
2月 期末テスト
中間発表会



◆春学期（前期）

4月 授業開始
7月 最終発表会
8月 盆踊り大会
研修レポート提出
修了式／帰国



⑨ コースの修了要件

日本語日本文化演習AB及び各レベルの必修科目及び選択科目から、各学期合計7科目以上受講し、また日本語による研修レポートの執筆と研修発表（中間発表会・最終発表会）をします。成績判定は、教員による成績会議で総合的に判断されます。コース修了が認められた学生には、成績証明書および修了証書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

◆日本語や日本文化、または三重県に関係するテーマを決めて、担当教員の指導のもと研究または実践活動を進めます。



2月中旬：中間発表会
7月中旬：最終発表会
8月下旬：研修レポート提出



◆研修が始まる前に、日本語レベル判定試験を受けます。その結果により中級Ⅱレベルと上級レベルに分かれます。自分のレベルに合わせ、中級Ⅱから上級レベルの日本語科目を受講して学習します。

2) 研修・コース開設科目（全て90分×16回／学期）

I) 必修科目

◆中級Ⅱレベル

授業名	内容
(1) 文法・読解	日本語の文章(文学、評論、随筆、自然科学)を読むことで、その面白さを味わい理解できるようになる。自分の好きな日本の文学作品等を1つ選び、その本の紹介をする(課題)。
(2) 作文	大学の専門分野の学習への橋渡しとして、高度な文章を総合的に読解できる力をつける。
(3) 聴解・会話	映画・アニメーション・ドラマ等の視聴を通して、生の日本語を聞き取り、意見交換を通して聴解・会話力を高める。
(4) 文法	中・上級レベルの文法を理解し、また自身の発話等の中で産出できる実践的な能力を養う。
(5) 読解	読解演習を通し、語彙や文法事項を文章の中で理解し、また文章全体の趣旨を理解する能力を育む。
(6) 会話	データやグラフ等の資料から自分の意見を述べ、ディスカッションや発表する力を涵養する。
(7) 日本事情Ⅰ：三重の社会と文化	日本と三重県の社会文化環境を、学外研修などを通して楽しみながら理解する。

◆上級レベル

授業名	内容
(8) 上級総合日本語Ⅰ	学術的な小論文の書き方の基礎を学ぶ。また、実際に小論文を書く。
(9) 上級総合日本語Ⅲ：留学生と学ぶ日本	三重大学生とのディスカッションを通して、日本社会・文化への理解を深めたり、自分の意見を発表したりする。
(10) 日本語・日本文化演習	自分の専門分野に関する研究を進め、研修レポートを書くための指導を受ける。

◆上級レベルの人は中級Ⅱの授業科目を、中級Ⅱレベルの人は中級Ⅰの授業科目を選択科目として受講することもできます。

Ⅱ) 選択科目 (英語による科目)

授業名	内容
(11) 日本事情Ⅱ : 英語で学ぶ文化	様々な文化的事象をディスカッションを通して学ぶ。
(12) 世界遺産と私たち	ユネスコ世界遺産とその価値について学ぶ。
(13) 環境問題と地球	世界の環境問題と、社会持続性について学ぶ。
(14) 英語でエッセイ	事例やデータに基づいた説得力のあるエッセイの書き方を学ぶ。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目

以下の科目では、三重県のような場所を訪問して地域の文化について学びます。

◆日本語による科目

日本事情Ⅰ: 三重の社会と文化 (=表Ⅰ(7))

4) 日本人学生との共修がある科目

以下の科目では日本人学生と共に学ぶことができます。

◆日本語による科目

上級総合日本語Ⅲ: 留学生と学ぶ日本 (=表Ⅰ(9))

◆英語による科目

日本事情Ⅱ: 英語で学ぶ文化 (=表Ⅱ(11))

世界遺産と私たち (=表Ⅱ(12))

環境問題と地球 (=表Ⅱ(13))

英語でエッセイ (=表Ⅱ(14))

⑪ 指導体制

◆福岡昌子教授 (専門: 音声・第二言語習得)

◆松岡知津子准教授 (専門: 文法)

◆正路真一助教 (専門: 心理言語学・第二言語習得)

■宿 舎

三重大学には現在留学生用の宿舎が三つあります。「外国人留学生寄宿舍」は、留学生と日本人学生が部屋をシェアして共同生活し、異文化交流を通してグローバルな視点を持てる場となっています。

①外国人留学生会館 (1988年建設)

月額 6,900円~14,000円

②外国人留学生寄宿舍 (2009/15年建設)

月額 7,500円~30,000円

③国際女子学生寄宿舍 (1973年建設) 月額 5,900円



(上-左) 外国人留学生寄宿舍 外観
(上-右) 外国人留学生寄宿舍 共用キッチン
(下-左) 外国人留学生寄宿舍 居室の共用ダイニング
(下-右) 国際女子学生寄宿舍 居室

■修了生へのフォローアップ

修了生と在校生の交流を目的に、12月の国際交流デイズでイベントを開く予定です。

■その他の学習支援体制

◆日本語チューター

三重大学生が留学生の日本語の向上や日本文化への理解を深める機会を与えます。日常生活のサポートもします。

◆てらこやサークル

三重大学生による日本語学習のボランティアサークルです。一緒に会話の練習をした後、日本語の宿題をみてもらうことができます。

■ホストファミリー・プログラム

希望する留学生は「セカンド・ホーム」というプログラムに登録し、週末や休日と一緒に楽しく過ごすためのホスト・ファミリーを持てる可能性があります。約30年の歴史を持つ市民交流プログラムです。



■問合せ先

<担当部署>

三重大学国際・情報部国際交流チーム

住所: 〒514-8507
三重県津市栗真町屋町1577

TEL: +81-59-231-9688 (直通)

FAX: +81-59-231-5692

Email: ryugaku@ab.mie-u.ac.jp

<ウェブサイト>

三重大学国際交流センター:

<http://www.mie-u.ac.jp/international/index.html>

三重大学:

<http://www.mie-u.ac.jp/>



シロモチくん
(津市PR
キャラクター)



✿ 編集後記 ✿

『日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集 XX I』をお届けします。2023年度に三重大学国際交流センターが受け入れた日本語・日本文化研修留学生（第21期生日研生）は大学推薦による国費外国人留学生4名と大使館による国費外国人留学生1名で、中国、ベトナム、タイ、インドネシア、クロアチアからそれぞれ1名ずつを迎えました。

研修生たちは、2023年9～10月に来日してから2024年8月までの約一年間、三重大学の日本語や日本文化の授業を受講するのと並行して、各自研究レポートの作成に取り組んできました。研究レポートというものを初めて書く学生も多く、皆苦勞しながら執筆したのが、本レポート集に収められたものです。研修期間の半ばに行われた中間発表会では各教員から修正の提案を受け、また最終発表会でもらったコメントやアドバイスの内容を反映させ、何度も書き直して完成までこぎつけました。大変だったと思いますが、こうして長い研究レポートを書き上げた経験は、研修生たちの、学生としての成長の糧であり、学びの証であると思います。

最後に、2023年度日本語・日本文化研修プログラムの運営には、例年と同じく多くの皆様にご協力をいただきました。あたたかいご指導を賜りました先生方、ならびに職員、関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

2024年9月

日本語・日本文化研修コース
コーディネーター 松岡 知津子